

『海中占』の輯佚

前原 あやの

はじめに

本稿は、天文占術書である『海中占』の佚文を収集、整理したものである。中国古代には複数の占星術書が存在したが、ほとんどが現存せず、それらの内容を知るためには『開元占経』など占辞を収載した文献によって佚文を見るほかない。『海中占』は『開元占経』、『観象玩占』、『天文要録』に佚文が多く収録されるものの、他の文献ではわずかに引用される程度である。

『海中占』の著者名は多くの場合記述されないが、『天文要録』巻一には「海中占廿卷 道仙撰」とある。道仙については『続高僧伝』巻二十五に「隋蜀部灌口竹林寺釈道仙伝二十二」があり、僧侶として紹介されるが、実際にこの人物が『海中占』を著わしたかどうかは不明である。成書年代についても詳しいことはわからない。

筆者はこれまで後漢の張衡『靈憲』の天文思想を検討してきた

が、『靈憲』の「海人之占未存焉」^①（海人の占未だ焉に存せず）という記述に関しては『海中占』や『海中星占驗』など、『漢書』芸

文志や『隋書』経籍志に見られる文献と関係があるという指摘がある^②。しかしそのほとんどは、内容の検討を行なっているわけではない。そこで佚文が多く残る『海中占』の内容を整理することで、『靈憲』の記述の意味するところを検討しようと考えたのである^③。『海中占』の輯本はこれまでに、新見寛編、鈴木隆一補『本邦残存典籍による輯佚資料集成 続』^④に『天文要録』と『天地瑞祥志』所載の佚文を収集したものがある。しかし、他の文献も含めて整理した輯本はこれまでになく、『海中占』の全体像を検討できる状況ではなかった。佚文を収集、整理することで、『海中占』の全体像を把握しようというのが本稿の目的である。

〔凡例〕

一、各佚文は、「海中占曰」、あるいは「海中曰」として引用され

た佚文を挙げた。また、「海中占曰」という引用の後、「一曰」、「又曰」と続く引用も含めた。ただし、「一曰」、「又曰」に続く引用は、必ずしも『海中占』からの引用とは特定し難いものもある。そこで本稿では、「一曰」、「又曰」に続く引用は、それと分かるように「一曰」、「又曰」、あるいは「(一曰)」、「(又曰)」と明記した。

一、原文は可能な限り正字体を用いた。

一、各佚文は、佚文が最も多く引用され、現在最も用いられることとの多い『開元占経』の引用順に基づいて配列した。具体的には、日↓月↓五星（歳星、熒惑、填星、太白、辰星）↓二十八宿↓石氏中官↓石氏外官↓甘氏中官↓甘氏外官↓巫咸中外交↓流星↓雜星↓客星↓妖星↓彗星↓風、雨、雲気などの順である。そのため、『開元占経』以外の文献の佚文は必ずしも引用された順には配列していない。また、『開元占経』では「月蝕」に関連する占辞を、本稿での「月占三」と「月占六」の二カ所で引用しており、分類が不十分である。しかし、これらはある程度そのまゝの順序で引用した。

一、各項目ごとに、『開元占経』、『観象玩占』、『天文要録』、その他の文献の順で関連する佚文を配列する。『開元占経』の佚文には順に1、2、3、…と、『観象玩占』の佚文には①、②、③…と、『天文要録』の佚文には(1)、(2)、(3)…とそれぞれ順に番号を付した。また、その他の文献には冒頭に「・」を付け区別する。

一、それぞれの底本や参照テキストは次の通りである。

『開元占経』⁽⁵⁾…唐・瞿曇悉達撰。

(底本) 四庫全書文淵閣本

他に次の二本と校勘を行ない、文字の異同を注に記す。

恒徳堂刊本

(関西大学図書館内藤文庫蔵)…「恒

本」と略称する

大徳堂本

(『中国科学技术典籍通纂』第五冊所

収)…「大本」と略称する

『観象玩占』⁽⁶⁾…著者未詳。清華大学図書館蔵明抄本(『統修

四庫全書』子部術数類1049所収)

『天問要録』…唐・李鳳撰。

(底本) 京都大学人文科学研究所蔵本

京都大学人文科学研究所蔵抄本は前田尊経

閣文庫本の転写本であるため、前田尊経閣文

庫蔵本との比較を行ない、誤字などがあれば

適宜修正した。

『後漢書』天文志…南朝梁・劉昭の注。中華書局校訂本

『天地瑞祥志』…唐・薩守真撰。京都大学人文科学研究所

蔵本

『乙巳占』…唐・李淳風撰。

(底本) 陸心源校刊十萬卷樓叢書本(百部叢書集成所収)

適宜、次のテキストと交合した。

天津図書館蔵清抄本(『統修四庫全書』子部術書類1049所収) …「天本」と略称する

『宋史』天文志…元・脱脱撰。中華書局校訂本

『武備志』…明・茅元儀輯。北京図書館蔵明天啓刻本(『四庫禁燬書叢刊』子部25所収)

『韜略世法』…明・著者不詳。明崇禎刻本。

『管蠡匯占』…清・周人甲撰。清道光刻本(『四庫未収書輯刊』肆輯27所収)

また、各々の佚文の末尾に「」で出典の巻数を付した。

一、『天文要録』巻十には、「右十六牒殷巫咸齊甘德海中占」「右十二牒周應邵海中占」「右十一牒春秋緯海中占」「右十六牒魏石申海中占」という分類で占辞が引用されるが、『海中占』の佚文であるか否かは判断できないため、本稿では取り上げなかった。

一、紙面の都合により原注は省略した。また、「又曰」や「二曰」などの異同、省略については注記しなかった箇所がある。

一、基本的に佚文は、「海中占曰」↓天文現象↓占辞という構成であるが、『観象玩占』を中心に、天文現象↓「海中占曰」↓占辞の順序で引用される場合がある(例…『観象玩占』巻三「月與熒

惑合、其宿國主死。海中占曰、其國不可以爲貴人傷有内兵)。その場合は、「天文現象…占辞」の形で引用した(例…「月與熒惑合…其國不可以爲貴人傷有内兵」)。

一、区切りは、底本で改行されている箇所、空格、あるいは別の文献の引用の直前までとした。そのため、一つの佚文に複数の占辞が含まれているものもある。

一、星座名は□で囲み、区別しやすくした。

一、別体字、あるいは同じ意味を有すると判断でき、繰り返し現出する文字の異同については、個々に注記しないこととする。

別体字以外で注記を省略する文字は次の通り。

- | | | |
|---|---------|-------|
| • 鬪と鬥 | • 五穀と五谷 | • 衆と聚 |
| • 飢と饑 | • 傍と旁 | • 蝕と食 |
| • 喜と憙 | • 蟲と虫 | • 鈎と勾 |
| • 糧と粮 | • 於と于 | • 原と源 |
| • 牀と床 | | |
| • 惑星の名称(歳星と木(星)、熒惑と火(星)、填星と鎮星と土(星)、太白と金(星)、辰星と水(星)) | | |

一、複数の文献の佚文に類似の記述が見られる場合(同じ引用と判断できる場合)は、佚文を並べた上でそれぞれ傍線を付した。

一、複数の分類にまたがる佚文は、原則として先の分類の方で取り上げた。

一、明らかに孫引きであると分かる引用は、取り上げなかった。

(例) 陳喬樞『詩緯集証』卷一「案占經歲星占引海中占曰…」など

〔本文〕

地占

1 主好聽讒言、廢置大臣、女子爲政、刑法誅殺、不以道理、則地圯。^a〔卷4〕

① 主信讒、女子爲政、刑殺不當、則地拆。〔卷49〕

a 大本は「听」に作る。(一字の文字の異同については元の字を明記しないこととする。以下同様) b 大本は「折」に作る。

日占

2 日鬪月蝕、主病脹、偏枯口舌、咽喉心腹。^a〔卷6〕

3 日蝕心度、^c兵喪竝發、王者以赦除咎。〔卷10〕

4 日蝕軫、王侯壽絶、王者以赦除咎則安。一曰、其國有憂、必有喪事。〔卷10〕

② 日在軫食……侯王將相有殃。〔卷19〕

a 恒本は「眼」に作る。 b この一文、大本には引用なし。 c 「日蝕心度」は大本にはなく「日在心蝕」に

引用される。

月占一

5 月生爪牙、人主偏、^a左右遇賊、有刺客、各在中分。〔卷11〕

6 月大而體小者、早。有氣色非常、皆爲皇后陰謀事。^d〔卷11〕

7 月出復沒、天下亂。^e〔卷11〕

8 月生正偃、天下有兵合、無兵主人凶。^f〔卷11〕

9 月兩弦中間、月光盛而衆多。或二三、或四五、及至十月竝見、皆爲天下分裂、天子失政、政在諸侯自立。^g〔卷11〕

(1) 月生五日蝕、將軍背君命、大戰流血、主大負失宮。〔卷5〕

(2) 月四日中、陽國失地、臣殺其君爲王、不出三年。〔卷5〕

(3) 月生三日而覆中衝、有土之君憂。〔卷5〕

(4) 月生於左右、藏馬而五色雲覆於四面、兩國兵盡奔來大戰、主人負、客勝。〔卷5〕

(5) 月生經四辰、其色白黑、亭薄、乍天下淫亂興。〔卷5〕

a 大体は「備」に作る。 b 大本は「愚」に作る。 c 恒本は「皇后」の後に「有」の字あり。 d 大本では

この後「月入八日北向陰國亡地」「月不尽八日南向陽國失地」とあり。 e 「兵」、大本は「兵兵」に作る。 f

「合」、大本は「合則」に作る。 g 大本ではこの後「爲君諸月旁氣皆與日占大同」とあり。

月占二——月與五星

10 月與歲星同光、即有飢亡。^a〔卷12〕

a 大本は「蝕」に作る。

a 「雨水敗」、恒本は「大水災」に作る。

11 月與熒惑合、其國太子死、貴人復傷、凶。不可有爲、若有内兵。〔卷12〕

14 月貫五星、天子坐之。〔卷12〕

③ 月與熒惑合……其國不可以爲、貴人傷、有内兵。〔卷3〕

④ 月掩熒或……其國人傷、不可起兵。〔卷3〕

(10) 五星入月中、而出其君死、不出君臣死、大將相攻擊。若月貫五星、天子以生發死。若月蝕犯列星、其國亡、兵起、諸侯多被兵殃、天下民人憂。若列星貫月、陰國可伐、不出三年、其國內亂、大將死。若星入月中、其國君有憂、臣勝其君、令不行。〔卷5〕

• 月與熒惑合、其宿同亂起兵。〔韜略世法〕卷上^c

a 大本は「天」に作る。 b 大本は「君」に作る。 c

〔熒惑八月中有兵以戰不勝〕の注として引用。

a 大本は「惡」に作る。

(6) 月犯蝕填星、下賤陵上、期六十日。〔卷5〕

15 歲星蝕月、有大喪、女主死、臣弑君、易位。〔卷12〕

(7) 月奄犯填星在軫宿、其國有喪。〔卷5〕

a 「君易位」、大本は「其君而易主」に作る。

12 太白出月右、陰國有謀。出左、陽國有謀。月挾太白、諸侯將相謀不軌。太白出月下、芒相耀、君死、民飢。〔卷12〕

16 熒惑入月中、臣以戰不勝、内臣死。〔卷12〕

⑤ 太白出月右、陰國有謀、出月左、陽國有謀。月扶太白、諸侯將相不侵。〔卷3〕

17 熒惑入月中、及近月七寸之内、主人惡之。一曰、讒臣在傍、主用邪。〔卷12〕

a 大本は「親」に作る。

⑥ 熒惑入月、及七寸已内……以戰不勝。〔卷3〕

a 大本は「親」に作る。

18 熒惑觸月、上角爲相、下角爲將、中央爲主。〔卷12〕

13 月與辰星相遇、所合宿雨水、敗。〔卷12〕

19 月蝕熒惑、有白衣之事。又曰、其國內敗、五年大兵。〔卷12〕

(8) 月犯辰星、其國有擾、兵起、不出三年〔卷5〕

a 「内臣」、大本は「臣内」に作る。 b 「主人」、恒本は「人主」に作る。 c 大本は「出」に作る。 d 「爲

(9) 月犯蝕辰星暈、臣試主天下大戰、分亡失國。〔卷5〕

e 大本は「會」に

作る。 f 「敗五年」、大本は「五年之間有」に作る。

20 太白入月中、有殺、不及九年、國以兵亡。〔卷12〕^a

⑦ 太白入月中……不及九年、國分兵亡。〔卷3〕^b

21 太白居月中無光、名曰月蝕太白、臣弑其主、勝、皆期三年。〔卷12〕

• 太白居月中無光、名月蝕太白、強國君死。〔韜略世法〕卷上^c

a 大本は「日」に作る。 b 恒本は「布」に作る。 c

〔月犯太白〕の注として引用。

22 辰星貫月、不出四年、有殃、内禍匿謀。〔卷12〕^a

a 大本は「柄」に作る。

月占三——月與列星、二十八宿

23 星入月中、其國君有憂。一曰、不出三年、臣勝其主。〔卷13〕^a

(11) 星出月陰、其國有勝。星出月下芒、君死、民飢。〔卷5〕

a 「君」、大本にはなし。

24 月犯角、其國有憂。〔卷13〕

⑧ 月犯角……其國有憂。〔卷8〕

25 月出角南、國家多暴獄、治病驕恣。〔卷13〕^a

⑨ 月出左角南、國君驕恣、多暴獄。〔卷8〕^b

(12) 月乘暈角、其國大水風雨。〔卷11〕

(13) 月犯乘兩角、其國貴人有擾、期二年。〔卷11〕

(14) 月暈角、其分野民飢、角虫多死、期一年。〔卷11〕

a 「角」、大本は「右角」に、恒本は「左角」に作る。

b 「治病」、大本は「君病」に、恒本は「君」に作る。

26 月犯亢、亡地、其國有憂。〔卷13〕^a

⑩ 月犯亢……其國亡地。〔卷8〕

a 「地」、大本、恒本は「地若」に作る。

27 月犯氏左星、郎中左將誅死。犯右星、郎中右將誅死。皆期三年。〔卷13〕^a

⑪ 月犯氏左星、左中郎將誅。犯右星、右中郎將誅。〔卷9〕

28 月蝕氏、氏星翳、一將死之、國有誅者。〔卷13〕^c

a 「死」の後、大本には「若」の字あり。 b 恒本は

「二」に作る。 c 大本は「其」に作る。

29 房上第一星上相、次星次相、下第一星上將、次星次將也。〔卷13〕

(15) 月冬三月入天庫中、百姓多飢死、不出二年。〔卷14〕^a

(16) 月行大陰、民流亡、天下兵悉起、内淫洪流大臣千里、不出三年。〔卷14〕

a 「天庫」、或いは「天倉」の誤りか。

30 月犯心中央星、人主惡之。犯其前星、太子惡之、及失位。犯其後星、庶子惡之、皆應以善事。〔卷13〕

⑫ 月犯心中星、天子惡之、宮中有亂。〔卷10〕

31 月犯心^b、有亂臣^c、天下有亡國。蝕心、國內亂、有大賊^d。〔卷13〕

32 月犯心中央星、人主敗、國有賊、人爲亂。〔卷13〕

33 月貫心一年、國君死、不則臣伐主。〔卷13〕

⑬ 月在心食……國有兵喪。一曰、庶子有災、太子失位。〔卷10〕

a 「其」、大本にはなし。 b 恒本は「星」に作る。 c 大本は「惡」に作る。 d 「大賊」、大本は「大賊作亂」に、恒本は「文人賊」に作る。 e 「有」、大本は「天下多盜」に作る。 f 「人爲」、大本は「位」に作る。 g 「一年」、大本は「一年主」に、恒本は「三年」に作る。 h 「君死不則臣伐主」、恒本は「内亂」に作る。

(17) 月逆鬲尾第五星、其分野且内亂、君死。〔卷16〕

34 月犯箕、女主有憂。〔卷13〕

35 月犯危、其國有憂。〔卷13〕

⑭ 月犯危……國有憂。一曰、兵在外、將死。〔卷13〕

36 月犯營室、其國有憂。〔卷13〕

37 月犯東壁、其國有憂。〔卷13〕

38 月蝕東壁、其國有閉門事。〔卷13〕

(18) 月蝕陵東壁、其國有憂、門閉事。大臣戮亡、有文章執者、不出一年。〔卷24〕

39 月蝕奎星、必有大戰、軍乏食。〔卷13〕

⑮ 月在奎……大將兵起、大臣有黜者。一曰、兵乏糧。一曰、聚斂之臣有黜者。〔卷14〕

a 「戰」の後、恒本には「死」の字あり。 b この一文、大本にはなし。

40 月犯婁、國有憂。〔卷13〕

⑯ 月犯婁……國有憂。〔卷14〕

41 月蝕婁星、軍不戰、在外罷。〔卷13〕

(19) 月蝕婁、大將軍不戰、在外罷。〔卷26〕

42 月犯胃、其國有憂。〔卷13〕

43 月犯乘^四、小國起兵、倉庫虛。^a 一曰、軍不戰、民多病、傷有令。〔卷13〕

a 「倉」、大本にはなし。

44 月蝕^昴、諸侯黜、門戶臣有事、天下飢。^b 〔卷13〕

20 月入^昴中、經五辰、諸侯黜門戶、臣有烈、民人飢。〔卷28〕
a 大本は「出」に作る。 b 「飢」、大本は「亂饑」に作る。

45 月犯^畢南、陽國有憂。^a 一曰、賊臣誅、不然邊有兵。^c 〔卷13〕

(21) 月犯^畢南、陽國有擾、賊臣誅君、邊將起、期二年。〔卷29〕
a 「國」、大本にはなし。 b 恒本は「直」に作る。 c 「有兵」、大本は「外有兵起」に作る。

46 月犯^觜、小戰。又曰、小將吏多死。^a 〔卷13〕

a この一文字、大本にはなし。

47 月犯^參、參其國有憂。又曰、國有兵事。〔卷13〕

17 月食^參伐……國有憂。〔卷16〕

48 月犯^參右肩、右將戰死。犯左肩、左將戰死。〔卷13〕

49 月蝕^參伐、兵大起。〔卷13〕

22 月蝕^參伐、兵大起。〔卷31〕

(23) 月入乘^參、其將軍死、有憂。〔卷31〕

50 月犯^{七星}、輕車戰。〔卷13〕

18 月犯^{七星}……輕車戰。〔卷18〕

51 月蝕^{七星}、國相更政。〔卷13〕

19 月在^星食虧太陰……其國更政、兵在外戰。〔卷18〕

a 大本は「在」に作る。

52 月犯^翼、其國有憂。^{a b} 一曰、相傳令。^c 一曰、外夷有兵。^d 〔卷13〕

a 「其國有」、大本は「太常官」に作る。 b 「憂」の後、大本には「一曰其分兵起有喪」あり。 c 大本は「命」に作る。 d 「外夷有兵」、大本は「蠻夷兵起蜚虫死」に、恒本は「外國有兵」に作る。

53 月犯^軫、兵車用、近期二年、遠期三年。〔卷13〕

月占四——月與星

54 月入^{攝提}、聖人受制。一曰、謀臣在側。〔卷14〕

• 月入^{攝提}、聖人受制、謀臣在側。一曰、女主憂、兵起、大臣有戮於市者。一曰、粟貴。〔乙巳占〕卷2

55 月入^{天市}中、近臣有抵罪者。^a 〔卷14〕

20 月入^{天市}……近臣有坐罪者。一曰、女主憂、兵起、大臣有戮

於市者。一曰、粟貴。〔卷21〕

56 月犯軒轅大星、女主當之。〔卷14〕

月犯女主^a、女主當之、應以善事即亡。〔天地瑞祥志〕卷7

57 月犯南門左右扉、將相有免墮者、期不出三年。左右扉者、

執法也。〔卷14〕

• 月犯太微垣、輔臣惡之、又君弱臣強、四方兵不制。犯執法

……將相有免者、期三年。〔宋史〕天文志二

58 月犯黃帝座、有亂臣、人主惡之。〔卷14〕

月犯帝坐、人主惡之。〔宋史〕天文志二

a 「有」、恒本にはなし。 b 「主」、大本はもと「生」

に作り、右に「主」と訂正。 c 「亡」、大本はもと

「已」に作り、右に「亡」と訂正。 d 「月」の前、大

本には「月犯太微廷臣弑其主」あり。 e 「月」、恒本

にはなし。 f 「扉」の後、大本には「執法大臣憂」あ

り。 g 「相有」、大本は「相死或有」に作る。 h 「者

期」、大本は「者少期」に作る。 i 「左右扉者執法也」、

大本では注に作る。 j 大本は「反」に作る。 k

「之」、大本は「之凶」に作る。

24 月守留天雞、其國北血、將軍薨。〔卷17〕

25 月入器府中、名臣失封、女后位耗。〔卷49〕

月占五——月暈

59 月暈歲星、其主病。重暈、囚死或大水。五暈、人主有病喪。

〔卷15〕

a 「病」の後、大本には「五谷傷大水」あり。 b 「大」、

大本にはなし。 c 「病喪」、大本は「災或喪」に作る。

また、その後「一曰天下有子之憂」あり。

60 月暈熒惑、三復之、國貴人憂。〔卷15〕

月暈熒惑^a、五復之、主出走。〔卷15〕

61 月暈熒惑、五復之、主出走。〔卷15〕

a 「熒惑」、大本は「赤星」に作る。 b 「走」の後、

大本には「暈而又犯之將軍以憂下」あり。

62 月暈填星、相死、若皇后死、不則亡地。〔卷15〕

a 「地」の後、大本には「國有土工」あり。

63 月暈太白、五復之、主死。〔卷15〕

26 月暈太白蝕經五辰、其國有奸臣、大將謀其主、不出七十日。〔卷5〕

64 月暈辰星、在春大旱、在夏主死、在秋大水、在冬大喪。〔卷15〕

21 月暈水星、在春大旱、在夏主死、在秋火水、在冬火喪。〔卷15〕

3]

a 「在冬」、大本は「在各冬」に作る。

②② 月暈角宿……民飢多風雨。「卷8」

65 月暈角亢、歲民饑。^a「卷15」

66 月暈角亢、歲凶民飢。^b「卷15」

a 「歲民饑」、大本は「歲民有饑或大風雨」に、恒本は「民饑」に作る。 b 「飢」の後、大本には「其下大戰大臣喪」あり。

67 月暈圍心、人主有殃。又曰、大旱。「卷15」

②③ 月暈于心……人主有殃。一曰、大旱。「卷10」

68 月暈圍心、中有赤雲、若白雲、大如杵、而貫月、大人當之、不然兵起。「卷15」

69 月暈室、大城圍屠。^a「卷15」

②④ 月暈營室……兵有屠城。「卷13」
a 「大」、恒本は「兵起」に作る。

70 月暈東壁、有大土功事。「卷15」

②⑤ 月暈于壁……國有亂。「卷13」

(27) 月暈參、弓弩貴、其國戰。「卷31」

71 月暈東井、胡兵起。^a「卷15」

②⑥ 月暈于井……胡兵起。「卷17」

a 恒本は「邊」に作る。

72 月暈鬼、大旱。「卷15」

②⑦ 月暈于鬼……大旱。「卷17」

(28) 月暈五車二重、其國有賢臣、出德令。以正月、四月、十月暈

五車陰、雨多水、期五十日。以十一、十二月暈五車、五穀貴。「卷41」

(29) 月暈南北、或二重、三公有喪、諸侯國益地。「卷41」

(30) 月暈北斗、有喪、則流民千里、穀貴。「卷44」

月占六——月蝕

73 月蝕於奎、大將軍有謀。^a「卷17」

a 「謀」の後、大本は「軍乏食大將戰死」に作る。

74 月蝕婁、其國有主事。^a「卷17」

a 「主事」、大本は「土工事人主憂宮中亂民飢有兵」に、恒本は「三事」に作る。

75 月蝕於^a參、兵在外、大將死、其國有憂、天下更令。「卷17」

a 「於」、大本にはなし。

• 其國改政、兵在外戰、主法之官憂斥。「大本、卷17」

a 「月在七星」に關する。

76 月蝕、王者以救、除咎則安。又曰、月蝕、清刑、明罰、勅法。

〔卷17〕

(31) 月蝕中央、其君有優、天下客軍大勝、益地。

五星占一

77 五星不當歷列宿、絶列星^b。有分國貴人有獄。抵列舍、其國有

喪。以五色占其吉凶。黃爲喜、赤爲兵、白爲喪、蒼爲憂、黑

爲水。「卷18」

78 五星有三角者、兵息。有五角者、則兵行。以角多戰也。「卷

18」

79 五星若合、是謂易行、有德受慶^c、改立天子、乃奄有四方、子

孫蕃昌。無德受罰^d、離其國家、滅其宗廟^e、百姓離去滿四方^f。

〔卷19〕

80 五星皆大、其事亦大^g。五星皆小、其事亦小^g。「卷19」

81 五星合^元^h、爲五穀類不成。「卷19」

a 「不當」、大本にはなし。 b 「列星」、大本は「列宿

星」に作る。 c 大本、もと「憂」に作るも、「受」に

改める。 d 大本、もと「罰」に作るも、「使」に改め

る。 e 大本、恒本は「滅」に作る。 f 大本、「去

滿」をもと「去遍滿」に作るも、「遍」を「対」に改め

る。また、「去滿」、恒本は「去漏」に作る。 g 「亦」、

大本にはなし。 h 恒本は「元」に作る。

82 三星合、其國外有兵喪、人民數改立侯王。「卷19」

83 熒惑填星辰近^d角合^e鬪、女子爲天下害、大臣殺主。「卷19」

a 「其」の前、大本は「是謂驚位」とあり。 b 「大本

は「飢」に作る。 c 「侯王」、大本は「侯與王」に作

る。 d 大本は「芒」に作る。 e 恒本は「舍」に作

る。 f 大本は「弒」に作る。

84 二星相近者、其殃大、相遠者、其殃小、無傷^a。「卷19」

85 熒惑與木星合、爲内亂、大臣謀主。「卷20」

86 熒惑木星鬪、有夷狄之害^b、有殺大將。「卷20」

87 熒惑貫歲星、殺小將。「卷20」

88 太白出歲星北、客利。歲星出太白北、主人利。「卷20」

⑳ 太白出歲星北、客勝、歲星出太白北、主人勝。「卷5」

㉑ 金出木北、客利。木出金北、主人利。太白犯歲星、若環繞之、

竝無光、有賊、戰破、軍殺將。一曰、太白環繞歲星、有亡。

- 主太白、主歲星、后憂。〔卷5〕
- 89 填星與熒惑合、女子爲天下害。〔卷21〕
- 90 與熒惑合、金從火、有兵罷。火從金、兵大起。〔卷21〕
- 91 熒惑太白合、野有破軍、將死。〔卷21〕
- 92 熒惑太白中上出、破軍殺將、客勝。〔卷21〕
- 93 辰星與填星合、在虛中、秋水出。〔卷22〕
- 94 辰星與太白合東方、天下兵大起、盛而不戰、裂地相賂爲利。〔卷22〕

a この一文、大本にはなし。 b 「夷狄」、恒本は「寇賊」に作る。 c 「星」、恒本にはなし。 d 「與熒惑合金」、大本は「熒惑與太白合」に作る。 e 恒本は「罪」に作る。 f 恒本は「不」に作る。 g 「將死」、大本は「死將」に作る。 h 「熒惑太白」、大本は「熒惑入太白」に作る。 i 「辰星」、大本は「浼辰」に作る。 j 恒本は「和」に作る。

五星占二——五星與星

- (32) 離星中星坎星屬兩角合鬪、女后天下爲破、大臣殺天子、不出二年。〔卷11〕
- (33) 五星逆行須女、陵舍不止、一運三變、其國小人昌、君子王位、不出二年。〔卷20〕
- (34) 五星逆行參、失度留止衝中者、有兵革起。〔卷31〕

- (35) 五星守陵輿鬼、出其南、多旱。出北、水、天下飢、不出三年。〔卷32〕
- (36) 五星犯鬲七星逆行、其國有奸臣。

- ③⑩ 五星犯守天稷……有大旱、穀不成、大飢。〔卷33〕

歲星占

- 95 歲星色黃、得地。〔卷23〕
- 96 歲星色蒼黃、吉。赤芒澤、有子孫喜、立王。黃、得地。白、有兵。黑、有德令。〔卷23〕
- 97 主好陰謀、侵凌諸侯、急兵革、則歲星逆行。〔卷23〕
- a 「黑」、大本、恒本は「青黑」に作る。 b 「星逆」、大本は「星必逆」に作る。
- 98 歲星守左右角、其色黃白、小旱、民小厲。其逆行、即旱。其還、立雨、糴如故。〔卷24〕
- ③① 木守左角、其色黃白、小旱。逆行即旱。還則雨。〔卷8〕
- 99 (又占曰) 歲星犯左右角、逆行爲旱、五穀不收。〔卷24〕
- 100 (又占曰) 歲星守角、一南一北、直黍與稷。〔卷24〕
- (37) 歲星守右角、經七日以上、一離一坎、穀貴、陽臣陰臣俱謀誅其君。〔卷11〕
- 守左角、色黃白、小旱。逆行則旱。還則雨。乘右角、兵起、

大將死。一曰、爲水。乘左角、法官誅。一曰、爲旱。食角、天下女子多死。凌左右角、國有憂。一曰、木出入留舍守角、其歲大熟。『管蠡匯占』卷4

a 恒本は「病」に作る。 b 大本、恒本は「守」に作る。

101 歲星守亢、爲地動。『卷24』

③2 木守亢……地動。『卷8』

102 (又占曰) 歲星守亢北、貴人多移徙、貴人爲妖祥、多疾。一曰、大人流亡。『卷24』

③3 木守亢北、貴爲妖祥、多疾病、大人亡。『卷8』

103 (又占曰) 歲星守亢、王者有德令、禾稼熟。『卷24』

104 (又曰) 封侯有小疾、國君受甲、飛蠱六畜、生非其類、爲妖、有小賊、民多流亡、期百五十日、若一年。『卷24』

105 (又曰) 居亢、歲旱。『卷24』

a 恒本は「婦」に作る。 b 「多疾」、恒本は「爲病」に作る。 c 「居亢歲」、恒本は「若歲亢」に作る。

106 歲星居氏、五穀以旱傷。『卷24』

③4 木居氏……五穀以旱傷。『卷9』

107 歲星守犯氏、成鈞已環繞之、其國饑、人君失時、政令不行。『卷24』

③5 木守氏……有旱。『卷9』

• 有旱。一曰、守之三十日、地有立王者。逆行守之、后妃憂。一曰、君不居其宮。『管蠡匯占』卷4

a 「時政」、大本は「政時」に作る。

108 歲星守房、他國有獻馬者、魚鹽十倍。『卷24』

a 「魚鹽十倍」、大本は「魚鹽大貴十倍」に作る。

109 歲星守鈞鈴、天下饑三年。『卷24』

110 歲星犯心天子星^a、王者絕嗣。犯太子、太子不利、犯庶子、庶子不利。『卷24』

③6 木犯心中星、王者絕嗣。『卷10』

111 歲星居心、多旱、五穀以旱傷。『卷24』

112 (又占曰) 歲星合心、玄色不明、有喪。『卷24』

③7 木居心……色赤、五穀以旱傷。其明潤、王者有福、人和、歲豐、賢人進用。色黑不明、有喪。『卷10』

113 歲星留逆犯守乘陵心者、王宮內賊亂、臣下有謀易主者、天子權在宗家得勢大臣。『卷24』

③8 木逆行犯守心、君不重明堂、賊臣謀逆主、宮內亂、天子易權在臣之得勢者。『卷10』

a 「星」、大本にはなく、恒本は「憂」に作る。 b

「利」、大本は「得代」に作る。 c 「多旱」、恒本は「臣強」に作る。 d 「合心玄」、恒本は「舍心光」に作る。 e 「犯」、恒本にはなし。 f 大本は「凌」に作る。 g 「賊」、恒本にはなし。 h 「有謀易主者」、大本は「有謀易主」に、恒本は「謀主」に作る。 i 「天子權在宗家得勢大臣」、恒本にはなし。また、大本にはこの後「又曰大旱」とあり。

- 114 歲星出入留舍尾、五十日不下、天下^a一國有^a大臣亡者。〔卷24〕
- (38) 歲星出入留舍尾、五十日不下、天下七國有^a大臣亡者。〔卷16〕

a 「天下」、恒本は「其」に作る。

- (39) 歲星乘暈箕星四重、其國不出五年、大水、失地五百里、民流亡散。〔卷17〕

- 115 歲星入南斗中、死者甚衆。〔卷25〕
- (39) 木入南斗……人多死者。〔卷11〕

- 116 歲星居南斗、五穀以旱傷。〔卷25〕
- (40) 歲星居南斗……五穀以旱傷、其北不利小兒。一曰、牛多死、其肉殺人。居其西、歲多飢傷、民多死。〔卷11〕

- 117 歲星舍牽牛、殺、虎狼入國。一曰、守牛西、虎狼多入邑中者。

- 118 歲星守牽牛、臣謀君、糴貴、三月乃復。〔卷25〕
 - (41) 木星守牛、臣謀君、米貴、三月乃復。〔卷11〕
- a 「殺」、大本にはなく、恒本は「有」に作る。 b 恒本は「止」に作る。

- 119 歲星守須女、有嫁娶、布帛之事。〔卷25〕
 - (42) 歲星守女……留守二十日、天下有嫁娶事、布帛貴。〔卷12〕
 - (40) 歲星舍居須女、經七連一夕、其國東方不利。〔卷20〕
 - (41) 歲星犯守陵須女二星、經八十日、君將有兩心。〔卷20〕
- a 恒本は「幣」に作る。

- 120 歲星犯虛而守之、王者以凶改服、有白衣之會、不出六十日、天下饑。又民流千里、君臣離散。〔卷25〕

- (43) 木犯虛遂留守之……王者改服、有白衣會、不出六十日、天下大飢、民流千里、君臣離散。歲與鎮同。守虛、陰陽失序、水旱不時。〔卷12〕

- (44) 木中犯乘凌虛……其東、民飢、且病多暴死。居其南、宮中雨血、宰相坐之。居其西、其月不雨。居其北、其下有亂。〔卷12〕

a 「饑又」、大本は「大饑」に、恒本は「饑又曰」に作る。 b 「千里」、恒本は「徒」に作る。

121 歲星守危、國有兵憂。一曰、兵竝起。〔卷25〕

a 恒本は「大」に作る。

122 歲星舍營室東、民多徙去。處其北、民有憂。〔卷25〕

123 歲星守營室、三日以上、王者去正殿、居省室、布恩德、赦有罪、則無咎。〔卷25〕

b 恒本は「八」に作る。

④5 歲星守室……王者去正殿、居則宮室施恩宥、過則无咎。〔卷25〕

13

a 恒本は「亡」に作る。 b 恒本は「八」に作る。 c

恒本は「宮」に作る。 d 「布」、大本は「宜施」に作る。

e 恒本は「災」に作る。

(42) 歲星舍東辟北、民憂、期二旬。〔卷24〕

124 歲星潤澤出奎、有善令。變色入奎、有僞令來者。若出奎、有僞令、出使者。〔卷26〕

a 有善令。 b 變色入奎。 c 有僞令來者。 d 歲星處奎中、小赦。〔卷26〕

125 歲星處奎中、小赦。〔卷26〕

126 歲星舍奎處其南、春食賤。處其東、糶乍賤乍貴、民移徙不安。處其西、四月五月食貴。處其北、民憂。〔卷26〕

④6 木處奎南、春糶貴。處其東、乍賤乍貴、民移徙不安。處其西、四月五月糶貴。處其北、民憂。〔卷14〕

k 歲星守奎、執法吏多死。〔卷26〕

127 歲星守奎、執法吏多死。〔卷26〕

128 歲星守奎、逆行、旱、五穀耗。其順行、色潤澤、即歲大熟。〔卷26〕

l 恒本は「德」に作る。

129 歲星守奎南、馬賤。一曰、牛賤。〔卷26〕

④7 木守奎南、馬牛賤。〔卷14〕

a 「奎有」、大本は「奎君有」に作る。 b 「令變」、大本は「令若變」に作る。 c 恒本は「德」に作る。 d 「星處」、大本は「星出處」に作る。 e 大本は「有」に作る。 f 「舍奎處」、大本は「處奎守」に作る。 g 「乍賤乍貴」、大本は「乍貴乍賤」に作る。 h 「移徙」、大本は「徙移」に作る。 i 大本は「奎」に作る。 j 大本は、別の箇所にも「歲星處奎南春米貴處其東乍賤乍貴民移徙不安處其西四五月米貴處其北民憂」とあり。 k 「死」の後、大本には「五穀耗傷旱此逆行也」とあり。 l 「穀耗」、大本は「穀虛耗」に、恒本は「穀折耗」に作る。 m 「即歲大熟」、大本は「歲大豐」に作る。 n 「賤一曰」、大本にはなし。

130 歲星入居婁中、小赦。〔卷26〕

131 歲星處婁南、春食賤、牛馬繪帛賤。處其北、八月兵起、七十二日罷、遠期三年。〔卷26〕

④8 木來留婁……處其東、粟賤。處其西、牛馬布帛賤。〔卷14〕

(43) 歲星處婁東、糶貴。處南、食賤、牛馬繪帛賤。處北、有奪地

之君。〔卷26〕

132 歳星舎婁[㊦]、去婁、舎奎、有赦。〔卷26〕

133 歳星守婁[㊦]中、又暈之、大赦、期九十日。〔卷26〕

134 歳星逆行守婁[㊦]甚^c、其君牢吏獄、斷不以時、人多怨訟、若有赦令。〔卷26〕

(44) 歳星守婁[㊦]北、兵起、期二年。〔卷26〕

a 「中小」、大本は「中有小」に作る。 b 大本は「二」に作る。 c 「甚」、大本にはなし。 d 「獄斷」、大本は「斷獄」に作る。

135 歳星守胃[㊦]、歳大熱。一曰、五穀大熱。〔卷26〕

a 大本は「入」に作る。

136 歳星守昴[㊦]、天倉實。〔卷26〕

(45) 歳星吞昴[㊦]星、將軍死。其年旱、霜、五穀傷。〔卷28〕

(46) 歳星入運亭[㊦]、王者出入遊獵、失節、兵奸起、印逆天子。〔卷29〕

137 歳星犯守鬻[㊦]、不出一句、必有偵候之事。農夫不耕、天子皇后俱崩、期甲辰日。〔卷26〕

(49) 木犯鬻[㊦]……有規候之事、農不得耕、君后俱忌之。一曰、五穀

不成、國大飢、天下大疫。〔卷16〕

(47) 歳星出入留舍居鬻[㊦]中、經六十日不下、禾豆半傷。經九十日不下、侯王見攻。經三百日不下、客軍大敗、主人吏勝、不出五年。〔卷30〕

(48) 歳星暈鬻[㊦]、有背冠、天下多乳死、女主有憂、後宮奸人起。〔卷30〕

a 「守」、大本にはなし。 b 「一句」、恒本は「旬日」に作る。 c 「背」、或いは「皆」か。

138 歳星守參[㊦]、多盜賊、高田貴、下田賤、其年樹木多爛。〔卷26〕

(50) 歳星守參[㊦]……多盜賊、高田貴、下田賤、其年草木多腐。一曰、晚稼不成。〔卷16〕

(49) 歳星留舍居參[㊦]伐、經五十日、其分野多盜賊、高田貴、下田田賤、樹木多爛、士卒不安憂。〔卷31〕

139 歳星守參[㊦]、后夫人當之。一曰、天下有兵驚。一曰、旱、人民多病。〔卷26〕

(50) 歳星守暈[㊦]、一夕三運、後宮有伏兵。候、天子不出、半周。〔卷31〕

a 「多爛」、大本は「草稻多腐爛」に作る。また、大本はこの後「一曰晚禾不成」とあり。 b この一文、恒本にはなし。

140 歲星守輿鬼、角動、有殺主者。色黑、誅死不成。〔卷27〕

141 木守鬼、出其北、旱。出其南、雨、水、五穀熟。〔卷27〕

⑤1 木守鬼、出其北、旱。出其南、多雨水、五穀熟。出其左右、

貴親坐之。又曰、木守鬼、角動、有謀逆者。色黑、事不成、

伏誅。〔卷17〕

(51) 歲星守輿鬼、角動、有殺主者。色黑、誅死不成。〔卷32〕

a 「角」、大本は「兩角」に作る。 b 「雨」、大本は

「多雨」に作る。 c 「熟」、大本は「不登」に作る。ま

た、大本はこの後「出其左右貴戚坐之」とあり。

142 歲星居柳、歲和熟。〔卷27〕

143 (又曰) 歲星出入留舍柳、九十日不下、將軍出。〔卷27〕

144 (又曰) 歲星逆行柳、其君不敬祭祀。〔卷27〕

⑤2 木居柳……五穀熟。〔卷18〕

a 「歲和」、大本は「歲和大」に、恒本は「年時」に作

る。 b 「出」の後、大本には「兵戰將死」とあり。 c

「不」、恒本にはなし。

145 木犯七星、使者滿道、子弑父、臣弑主。〔卷27〕

⑤3 木犯七星……使者滿道、臣下謀上。〔卷18〕

52 歲星處七星、民疾疫。處其西、多水。〔卷35〕

53 歲星與七星同光、大者、其國以賊當貴。〔卷35〕

(54) 歲星入吞蝕七星南、國以火破、有喪、大臣與諸侯爭國政、兩

大戰。〔卷35〕

a 大本は「死」に作る。 b 大本、恒本は「君」に作

る。

146 歲星守翼、處其東、魚鹽瓦器貴。處其南、車貴。處其西、不

占。處其北、五穀不成。〔卷27〕

⑤4 木處翠東、瓦器貴。處南、車貴。〔卷19〕

a 「守翼處其」、大本は「處翼」に作る。 b 恒本は

「蕘」に作る。

147 歲星犯守軫、天子養孤老不平、大臣背叛、師旅起、車騎盡發。

⑤5 木守軫……天子不恤孤老、大臣皆叛、師旅大興。〔卷19〕

148 歲星守軫、主庫者有罪。〔卷27〕

⑤6 歲星守軫……主庫者有罪。〔卷19〕

a 「養」、大本は「不恤」に作る。 b 恒本は「及」に

作る。 c 「起軍」、大本は「大起軍」に作る。 d 大

本は「車」に作る。 e 「有罪」、大本は「罪之」に作

る。

149 歲星犯攝提、臣謀其君、若主出走、有兵起、期一年。〔卷28〕

- a 大本はこの一文を「石氏曰」として引用。ただし、「若」「一」はなし。
- 150 歳星守^a天角、臣謀主者、有兵起、人主憂、王者戒愼左右、期不出百八十日、遠一年。〔卷28〕
a 大本、恒本は「犯」に作る。 b 「者」、大本にはなし。 c 大本は「糴」に作る。
- 151 歳星入^a天市、五官有憂、若市驚。一日、易市。〔卷28〕
57 歳星入^a天市……市驚、有易市。〔卷21〕
a 大本は「市者」に作る。
- 152 歳星犯守^a候星、陰陽不和、五穀傷、人大饑、有兵起。〔卷28〕
a 「候星」、大本は「天候」に作る。 b 「傷人大饑有兵起」、大本は「不成人民饑兵且起」に作る。
- 153 歳星守^a建星、旱、死者甚衆、民大耗。〔卷28〕
a 「旱死者甚衆」、大本は「糴貴人相食」に作る。 b 「耗」の後、大本には「大飢」とあり。
- 154 歳星犯^a天津、關道絶不通、有兵起。若關吏有憂。〔卷28〕
a 「不通」、大本は「有不通者」に作る。 b 大本は
- 155 歳星入^a五車、兵大起、車騎行、五穀不成、天下民饑、若軍絶粮。〔卷28〕
156 歳星守犯^a天關、道絶、天下相疑、有關梁之令。〔卷28〕
a 「令」の後、大本には「一日歳水民飢有自賣者」とあり。
- 157 歳星犯守^a天牢、王者以獄爲弊、貴人多繫者。〔卷28〕
a 「多繫者」、恒本は「凶」に作る。
- 158 歳星入^a長垣、天子以兵自衛、強臣凌主。一日、叛臣被誅、若戮死。期不出百八十日。〔卷28〕
a 「死」、大本は「死者」に作る。
- 159 歳星犯^a龜星、天下有水旱之災。守陽則旱、守陰則水。〔卷29〕
160 歳星入^a杵星、若守之、天下有急發米之事、不出其年。〔卷29〕
a 「守之」、大本は「守之犯之」に作る。 b 「急發米」、大本は「發粟米」に、恒本は「急發乘」に作る。 c

「其」、恒本にはなし。

161 歲星入守羽林、有兵起、若有逆行、變色成鈎已、天下大兵、

關梁不通、不出其年。〔卷29〕

a 「有」、大本にはなし。 b 「鈎已」、大本は「勾已者」に作る。

162 歲星守王司空、其國以土起兵。若有土功之事、天下旱。〔卷

29〕

a 「若」、大本にはなし。

163 歲星守參旗、兵大起、弓弩用、士將出行。一日、弓弩貴。〔卷

29〕

a 恒本は「大」に作る。 b この一文、大本にはなし。

164 歲星犯守天稷、有旱災、五穀不登、歲大饑。一日五穀出。〔卷

29〕

a 「登歲大饑」、大本は「成大飢荒」に作る。 b 「出」、恒本は「虫」に作る。

熒惑占

165 熒惑法使行無常。〔卷30〕^a

166 熒惑色赤、國有憂。厚白、則國有憂。薄蒼、即天下多喪、其國尤甚。〔卷30〕^b

⑤8 熒惑色赤、國有憂。白亦憂。色蒼、天下多死喪、其國尤甚。熒惑春色赤、百姓有憂。冬色白、大臣多辱。〔卷6〕

167 〔熒惑出西方若東方〕の注 國君死。〔卷30〕^c

a この一文、大本にはなし。 b 恒本は「喪」に作る。 c 「死」の後、大本には「之所宿者天子惡之四孟

之月候王受之四仲之月大臣受之四季之月小民受之」、恒本には「之所宿者天子惡之」とあり。

168 熒惑守左角、有喪。色白爲兵、黃爲土功、赤爲旱、青憂、黑

死。〔卷31〕

169 熒惑守左右角、其色黃白、小旱、民小厲。〔卷31〕^a

火守左右角、其色黃白、小旱、民小厲。〔卷8〕

• 守左角及右角、其色黃、小旱、民小厲。〔管蠡匯占〕卷4〕

170 〔又占曰〕熒惑守左右角、逆行爲旱。還立雨、爲五穀不收。〔卷31〕

171 〔又占曰〕熒惑守角、貴人子有繫者。去獄之天牢、貴人子赦。〔卷31〕

⑥0 火守角……貴人子有繫獄者。〔卷8〕

172 〔又占曰〕熒惑起芒角、赤色而光、久守天門、王者絕嗣。各以占其國。〔卷31〕^e

⑤6 熒惑守兩角、左右將軍校尉相戮死、其分貴人子有繫者、期九十

十日。〔卷11〕

⑤7 熒惑守左角、經二運二夕、天下五兵竝連、期一年。〔卷11〕

⑤8 熒惑守舍天陳、經二旬已上、其國有喪、期一年。〔卷11〕

a 「色黃」、大本は「色赤黃」に作る。 b 大本は「勵」に作る。 c 大本は「主」に作る。 d 「起芒」、恒本は「守」に作る。 e 「以占」、大本、恒本は「以日占」に作る。

173 熒惑守元、天下有白衣之會、天子易政、道路不通。〔卷31〕

⑥1 火守元……天下易政、道路不通、有白衣會。一曰、大將有喜。

一曰、天有火災。〔卷8〕

174 熒惑守元、成鈎已而環繞之、三十日、天子自將兵、國易主。^a

〔卷31〕

⑥2 火守元五十日、勾已環繞之、天子自將兵、國易主。〔卷8〕

a この一文、大本にはなし。

175 熒惑守氏、國亂、有反臣、近臣有憂。有兵、期六月、不出六

十日、赦、不遍天下。歲春旱、晚水。不出其年、人相食。〔卷

31〕

⑥3 火守氏……國亂、有反臣。不出六十日、赦、大徧天下、歲春

旱、晚水、不出其年、人相食。〔卷9〕

a 恒本は「主」に作る。 b 「日赦」、大本は「日其

赦」に作る。 c 「不遍」、大本は「不遍通」に、恒本

は「不道」に作る。 d 大本は「期」に作る。

176 熒惑行房南、旱、若守之、爲喪。行房北、爲水、若守之、爲

兵。〔卷31〕

• 熒惑磨心、環遶于房、守而不留正舍、往來徘徊、彷彿人主、無下殿遠宮闕、宮中有伏兵。〔大本、卷31〕^a

177 熒惑守房三日、鬼火夜行、人民大恐、多死喪。〔卷31〕^b

⑥4 火守房三日、鬼火夜行、人恐驚、多死喪。〔卷9〕

⑤9 熒惑守房三日、民大恐、多怨賊、則女主有喪。〔卷14〕

a この一文、大本にのみあり。 b 「大恐多」、大本は「怨恐懼」に作る。

178 熒惑犯心、天子王者絶嗣。犯太子、太子不得代。犯庶子、庶

子不利。〔卷31〕^b

⑥5 熒惑犯心……王者絶嗣、貴人有惡死。〔卷10〕

179 (又占曰) 熒惑犯心、必有饑餓而死者。〔卷31〕^c

180 火守心、色赤、有兵、臣謀其主。黑、主死。白、謀臣有賜爵

者。青、大人有憂。〔卷31〕

181 熒惑守心、天下大吟、居之三月、有殃。五月、受兵。十月、

其野亡。〔卷31〕

⑥6 火守心……天下哭聲吟吟、居之三月、國有殃。五月、受兵。

十月、國亡、人流。〔卷10〕

182 熒惑守心、南爲水、北爲旱。〔卷31〕

⑥7 火守、南爲水、在北旱。〔卷10〕

• 火在心南、爲水。在北、爲旱。〔管蠡匯占〕卷4

183 (又占曰) 熒惑守心、民流亡。〔卷31〕

184 熒惑留逆犯守乘凌心星、王者宮中亂、臣下有謀易立天子者、

權在宗家得勢大臣。〔卷31〕

a 「天子」、大本にはなし。 b 「犯太子太子不得代犯

庶子庶子不利」、大本には無し。また「利」、恒本は

「制」に作る。 c 「熒惑犯心必」、大本は「貴人」に作

る。 d 「饑餓而」、大本は「饑」に作る。 e 「民流」、

大本は「民有流」に作る。 f 「逆犯守」、大本は「守

逆犯」に、恒本は「逆守」に作る。 g 「心星」、大本

は「于心」に、恒本は「心三星」に作る。 h 「王者宮

中」、大本は「王者宮内」に、恒本は「者宮内」に作

る。

⑥0 熒惑舍居尾第二星、經六十日、其分野牛馬自死、期九十日。

〔卷16〕

185 熒惑守箕、大旱。〔卷31〕

186 熒惑以十月守箕、名曰火入水、萬民饑死、穀價五倍、天下大

赦。〔卷31〕

⑥8 火以十月守箕……是謂火入水、萬民飢死、粟貴三倍。〔卷10〕

187 熒惑犯南斗、且有反臣、道路不通、丞相有事。〔卷32〕

⑥9 火犯南斗……有反臣、道路不通、丞相有事、天下亂。〔卷11〕

188 熒惑逆行南斗、怒動大明、天下大驚。〔卷32〕

189 熒惑舍南斗、環繞成鈎已、太尉上卿宰相死。〔卷32〕

190 熒惑守南斗、早、多火災。〔卷32〕

⑦0 熒惑守南斗……多火災。〔卷11〕

• 爲多火災。一曰旱。〔後漢書〕天文志中、劉昭注

a 「南斗且」、大本、恒本は「斗」に作る。以下、190ま

で同様に「南斗」を「斗」に作る。 b 「事」の後、大

本には「天下大飢」とあり。 c 「怒動大明」、大本は

「怒動明大」に、恒本は「怒動大明」に作る。 d 「下

大驚」、恒本は「子大駕」に作る。 e 「早」、大本は

「主旱」に作る。 f 「八月庚子、熒惑犯南斗。斗爲具」

の注。

191 熒惑出入留舍牽牛、春旱、秋水。一曰、關梁不通。〔卷32〕

⑦1 火出入留舍牛……春旱、秋水、關梁不通。〔卷11〕

192 熒惑守牽牛、爲旱。〔卷32〕

- ⑦② 熒惑守牽牛……旱。一日、有急行。一日、有犧牲之事、有臣反者、從中起、有走死將、期一年。〔卷11〕
- 193 熒惑守牽牛、有急行。又曰、歲多雨露。〔卷32〕
- 194 熒惑犯守牽牛、諸侯多疾。〔卷32〕
- a 「春」、大本は「主春」に作る。 b 大本は「大」に作る。 c 「雨露」、大本は「風雨」に作る。 d 「侯多疾」、大本は「多疫癘」に作る。
- 195 熒惑犯守須女、多妖祥、大臣當之。〔卷32〕
- ⑦③ 火守女、國多妖、大臣當之。〔卷12〕
- (61) 熒惑入守須女、經一月、其國多盜賊、道路不通、期九十日。〔卷20〕
- a 「須」、大本にはなし。 b 「之」、恒本は「之也」に作る。
- 196 熒惑守危^a、春旱、秋多水災。〔卷32〕
- ⑦④ 熒惑守危……春旱、秋多水。〔卷13〕
- a 「熒惑」、大本は「火留」に作る。
- 197 熒惑入營室^a、留二十日、天子死、守其南、皇后死。守其西、太子死。守其北、爲諸侯有死者。〔卷32〕
- ⑦⑤ 火入室因留舍之……留二十日、天子凶。舍其南、主后凶。舍其西、太子凶。舍其北、諸侯有死者。〔卷13〕
- 198 熒惑守營室^f、人民疾疫、多死亡。〔卷32〕
- ⑦⑥ 熒惑守室……人疾疫、多死。〔卷11〕
- a 「營室」、大本は「室中」に作る。 b 大本は「主」に作る。 c 「死守」、大本は「死忌之守」に作る。 d 「北爲」、大本は「北忌之爲」に作る。 e 大本は「犯」に作る。 f 「守」、大本は「入守」に作る。 g 「疾疫多死亡」、大本は「多死亡或多大水」に作る。また、大本では別の箇所にも「火入室人民疾疫多死」とある。
- 199 赤星入營室^a、東壁、大臣凌主。〔卷32〕
- ⑦⑦ 火入壁……臣凌君。一日、有土工。〔卷13〕
- 200 熒惑守室^b、宮失火。一日、旱、五穀不成。一日、兵民多死。〔卷32〕
- ⑦⑧ 熒惑守壁……宮中火災。一日、兵民多死。〔卷13〕
- (62) 熒惑填星太白有守東壁、皆爲土功事。〔卷24〕
- (63) 熒惑犯留東壁、其國春大旱、諸侯相謀、期八十日。〔卷24〕
- a 「營室東」、大本にはなし。 b 大本は「東」に作る。 c 「宮」、大本は「宮中」に作る。 d 「一日旱五穀不成一日兵民多死」、大本は「兵民多死亡一日五穀不成大旱」に作る。

201 熒惑潤澤出奎、有喜令。其變色入奎、有僞令。來者若出奎、

有僞令、出使者。〔卷33〕

202 熒惑守奎、其國坐之、三十日不下、其君憂。〔卷33〕

⑦9 熒惑守奎……其國君憂。一日、女多淫。一日、山盜起、有水

事。〔卷14〕

a 「其」、大本にはなし。

203 熒惑入若守婁、天子受賀、期三十日、遠八月。〔卷33〕

64 熒惑入守婁星、天子受賀意、大赦天下、期九十日。〔卷26〕

a 「若」、大本にはなし。 b 「月」、大本は「月内」に作る。

204 熒惑守胃、三十日、其君憂。〔卷33〕

⑧0 熒惑守胃……君憂。〔卷15〕

205 熒惑入昴、留二十日以上、牛馬多疾。〔卷33〕

206 熒惑守昴、邊境不寧。〔卷33〕

207 熒惑守昴、憂在大人。〔卷33〕

⑧1 熒惑守昴……胡不寧、多病死。〔卷15〕

65 熒惑入舍居昴、經六十日已上、其國多疾疫、其國有聚人、不出半周。〔卷28〕

a 「熒惑入昴留二十日以上」、大本にはなし。 b 「疾」

の後、大本には「熒惑留之守之」とあり。 c 「邊境」、大本は「胡人」に、恒本は「邊人」に作る。

208 熒惑犯畢、國有畋獵之事。〔卷33〕

⑧2 火犯畢……有畋獵之事。〔卷16〕

⑧3 熒惑守畢……人君以畋獵廢政。〔卷16〕

a 「國」、大本にはなし。 b 「畋獵」、大本は「畋獵惑政」に、恒本は「牧獵」に作る。

209 熒惑守觜觿、其國有憂。〔卷33〕

66 熒惑守陵暈觜星、其分野民人食絶、諸侯多飢死、期七十日。〔卷30〕

a 「觿」、大本にはなし。

210 熒惑守伐五日、人主死。〔卷33〕

⑧4 火……守伐五日、人主忌之。一日、火入伐、有兵戰。守之五日、大將死。〔卷16〕

211 熒惑入東井、角動、赤黑色、大人當之、以水起兵、其環繞之事必成。其留二十日、色赤黃、大人增地。黑、憂、奪地。〔卷34〕

212 熒惑過東井上二丈者、軍將必當去其兵、歸必有病事。〔卷34〕

213 熒惑在東井北戌、去戌三丈、當復發千人以上。去戌二丈、復

- 發萬人。去戊一丈、門開、道無行人、若其留戊下六十日、天下大赦。〔卷34〕^k
- 214 熒惑入東井、留三十日以上、既去復還、居之若環繞成勾己者、國君有憂、若重有喪、期九十日、若一年。〔卷34〕
- ⑧5 火行井上、二大將軍死。〔卷17〕
- 火行井上二尺、將死。〔大本、卷34〕
- a 「東」、大本にはなし。以下214まで同様。 b 「角動」、大本は「角若動」に作る。 c 「環繞」、恒本は「繞過」に作る。 d 「留」、大本は「留之」に作る。 e 「二丈」、大本は「丈」に、恒本は「一尺」に作る。 f 「軍將」、大本、恒本は「將軍」に作る。 g 「去其」、恒本は「其去」に作る。 h 「戊去戊」、大本は「下戊」に、恒本は「戊下至」に作る。 i 大本は「后」に、恒本は「後」に作る。 j 「上去」、大本は「去」に作り、恒本にはなし。 k 「一丈」、恒本にはなし。 l 「門開」、大本は「閉門」に作る。 m 「留」、大本にはなし。
- 215 熒惑入輿鬼中央星、可四五日、大人當之。〔卷34〕^a
- 216 熒惑守輿鬼、出其南、水。出其北、早。〔卷34〕
- 67 熒惑吞輿鬼暈、女主呵大臣、不出一年。〔卷32〕
- a 「輿」、大本にはなし。216も同様。
- 218 熒惑守張、功臣當有封者。〔卷34〕
- 219 熒惑犯張若守之、天下有兵、宮門當閉、男子有急、女子不安、五穀不成、民大飢。一曰、火居張、人絕糧。〔卷34〕
- a 恒本は「舍」に作る。 b 「一曰」以下、大本にはなし。
- 220 熒惑守大角、臣謀主者有兵起急、人主憂。王者誠慎左右、期不出百八十日、遠一年。〔卷35〕^c
- ⑧7 火星守大角……有亡國。守之三日、王者惡之、期一年、遠三年。〔卷26〕
- a 「者」、大本にはなく、恒本は「若」に作る。 b 「兵起急」、恒本は「急兵起」に作る。 c 「百」、大本は「二百」に作る。
- 221 熒惑入犯守織女、有大兵起、十年乃罷、若貴女有憂。〔卷35〕^a
- a 恒本は「君」に作る。 b この一文、大本にはなし。
- 217 熒惑守七星、人主有憂、津橋不通。〔卷34〕^a
- ⑧6 火犯七星……民苦淫役、津梁不通。〔卷18〕
- 68 熒惑祀乘七星、經八十日、橋梁不通、其國發大僇役、民人愁苦、女主有喪。〔卷35〕
- a 大本は「梁」に作る。

し。

222 熒惑入天市、天子失廷、期六月。〔卷35〕

⑧8 火入天勾……天子失廷。〔卷21〕

• 熒惑入天市垣、將相凶。〔恒本、卷35〕

a 大本は「庭」に作り、恒本は「近」に作る。

223 熒惑犯守候星、陰陽不和、五穀傷、人大飢、有兵起。〔卷35〕

a 「犯守」、大本は「守犯」に作る。

• 熒惑舍建星……馬大貴。〔大本、卷35〕

224 熒惑犯離珠、宮人有憂。若兵起宮中、若有誅、期二年。〔卷35〕

a 「宮人有憂若」、大本にはなし。
b 「若有誅期二年」、大本は「或宮人有憂」に作る。

225 熒惑犯天津、關道絶、不通。有兵起、若關吏有憂。〔卷35〕

226 熒惑入守臚蛇、天子憂前驅爲害。若因水爲敗、期不出年。〔卷35〕

35

a 大本は「凶」に作る。 b 「前驅」以下、恒本にはなし。

(69) 熒惑守王良、諸侯道不通、兵馬趨、車騎連行。〔卷40〕

227 熒惑入五車、兵大起、車騎行、五穀不成、天下民飢、若軍絶糧。〔卷35〕

⑧9 熒惑入五車……兵大起、五谷不成、民飢、軍絶糧。〔卷31〕

228 熒惑出入天關、左右必有置立關塞之事。一曰、必有逆兵不順者。〔卷35〕

⑨0 火出入天關、必有置立關塞之事。一曰、兵逆起。〔卷31〕

229 熒惑守犯天關、道絶。天下相疑、有關梁之令。〔卷35〕

a 「左右必有置立關塞之事一曰」、大本にはなし。

230 熒惑舍南闕下、飢。〔卷35〕

a 「舍南闕下飢」、大本は「出入北河戌若守北河戌環繞之其邊將帥有諸命而伐夷狄者勝之」に作り、恒本は「舍南河大飢」に作る。

231 熒惑犯五諸侯、其國有兵、車騎出行。若貴臣有殃、若有死者。〔卷35〕

〔卷35〕

232 熒惑守軒轅、十五日以上、大兵起、宮人不安、天下亂、國易政、期三年。^b〔卷36〕
a 大本は「春」に作る。 b 大本は「或」に作る。

a 「上大」、大本は「上者大」に作る。 b 「年」の後、大本には「一曰地動」あり。

233 熒惑犯守天牢、王者以獄爲蔽。一曰、貴臣多下獄、若有叛臣、纂獄殺君、不出二年。^a〔卷36〕
a 「天牢」中無星、則改元、若閉口及星入**天牢**中、則獄中有係死者。

⑨1 火犯守天牢、若有叛臣、纂獄殺主、不出二年。一曰、火守**天牢**、人相食、國有暴兵。^b〔卷23〕
a 「天牢」中無星、則改元、若閉口及星入**天牢**中、則獄中有係死者。

又曰、恒以五子、之日夜候**貫索**。一星不見、則有小赦。二星不見、則有賜祿。三星不見、則人主德令行、且有赦。甲期八十日、丙期七十日、戊期六十日、庚期五十日、壬期四十日。
〔大本、卷35〕

a 「獄若有叛臣纂獄」、大本は「獄者若有纂臣叛獄」に、恒本は「獄若有叛臣纂欲」に作る。 b 「若」以下、大本は卷35でも引用。ただし、「君」は「主」に作る。

234 熒惑抵北斗杓頭星、女主政令猶豫、若女主用事、期一年。
〔卷36〕

(70) 熒惑守留北斗、有移徙民、其天子宮、有賊盜、不出二年。^a〔卷44〕
a 恒本は「入」に作る。 b 「杓頭星」、大本にはなし。

a 恒本は「入」に作る。 b 「杓頭星」、大本にはなし。

235 熒惑逆行守天庫、兵起、未罷。若順行、乃罷。以其遠近、東西南北、其日占之。^a〔卷37〕

(71) 熒惑太白入犯天庫、騎官兵起、期三年。^a〔卷46〕
a 「未罷」、大本は「不息」に作る。

236 熒惑犯守龜星、天下有水旱之災。守陽則旱、守陰則水。^a〔卷37〕

237 熒惑入秤星、若守之、天下有急發米之事、不出其年。^b〔卷37〕
a 「星若」、大本は「而」に作る。 b 恒本は「期」に作る。

a 「有」、恒本は「有急」に作る。 b 「若」、恒本にはなし。 c 「急」、大本は「急則」に作り、恒本にはなし。

• 火守**九坎**、在陽爲旱、在陰爲水。^a〔大本、卷37〕

238 熒惑入守羽林、有兵起。若逆行變色成勾已、天下大兵、關梁不通、急不出其年。^c〔卷37〕
a 「有」、恒本は「有急」に作る。 b 「若」、恒本にはなし。 c 「急」、大本は「急則」に作り、恒本にはなし。

a 「有」、恒本は「有急」に作る。 b 「若」、恒本にはなし。 c 「急」、大本は「急則」に作り、恒本にはなし。

し。 d 「其」、恒本は「期」に作る。

239 熒惑守王司空、其國以土起、兵若有土功之事、天下旱。^a「卷

37」

a この一文、大本は「石氏曰」で引用。また、「守」は「犯守」に、「旱」は「大旱」に作る。

240 熒惑守^a天倉、天下有兵、若有出粟。「卷37」

a 「守」、恒本は「入守」に作る。

241 熒惑守矢星^a、天下旱^b、五穀不成、人民大飢、多疾死、期不出年。「卷37」

a 「守矢星」、大本は「犯矢星」に、恒本は「守天屎星」に作る。 b 「天下旱」、大本は「若守之天下大旱」に作る。

242 熒惑守狼星、四夷兵起^a、來侵中國、弓矢大貴、王者有憂。一曰、夷將有死者。^b「卷37」

(72) 熒惑色赤、芒狼星、一夕五運留守、經旬、其國法令不之、百姓進退不平、女主走亡。「卷46」

a 恒本は「塞」に作る。 b この一文、大本にはなし。

243 熒惑犯守天稷^a、有旱災^b、五穀不登、歲大飢饉^c。一曰、五穀散出。^d「卷37」

a 「有」、大本は「主天」に作る。 b 「災」、大本にはなし。 c 「歲大飢饉」、大本は「大荒米貴人飢」に、恒本は「歲大飢」に作る。 d 「出」、恒本にはなし。

(73) 熒惑辰星失度、留折威、外軍侵内、將軍死、吞血。「卷48」

填星占

• 填星天子之星也。若失信、則填星大動。「大本、卷38」

244 (周梁の注) 周梁、中國也。^a「卷38」

245 填星光明、歲熟。其所守國安、大人有喜、增地。「卷38」

246 填星色白、芒澤、有子孫喜^d、立王^e。「卷38」

(92) 鎮星而芒澤、天子子孫、有立王。一曰、女主退。「卷7」

247 填星去宿^f、天子不立后^g。去宿南數十尺、女主不用事、若大水。去其宿北數十尺、女主當之、若大旱。^h「卷38」

(93) 鎮星去宿、天子不立后。去宿南、女主失勢、有大水。去宿北、大旱、女主災。又曰、人君好遊獵、走狗馳馬、出入不時、賜與不當、則土星失次、其殃爲民多疾病、歲多大風、五谷不實。土星去宿愈遠、則災愈甚。ⁱ「卷7」

248 主好畋獵、走狗馳馬、出入不時、賜與不當、則填星失宿。民多病、歲多大風、黍稷無實。^j「卷38」

k 多病、歲多大風、黍稷無實。^l「卷38」

a 大本では注ではなく本文。また、大本には「也」の後に「邦有德填星當也」とあり。 b 「國安」、大本は「之國大安」に作る。 c 「有」、大本は「天子」に作る。 d 大本は「有」に作る。 e 「立王」、大本は「立王之喜」に、恒本は「爲王」に作る。また、大体はその後に「一曰女主退後宮不吉」とあり。 f 「去宿」、大本は「去其宿」に作る。 g 恒本は「太」に作る。 h 恒本は「若」に作る。 i 「十」、大本にはなし。 j 「主」、大本は「填星去其宿人君」に作る。 k 「病」、大本は「疾疫」に作る。 l 「黍稷無實」、大本は「五谷不成其國民憂」に作る。

a 大本は「血」に作る。 b 「右角」、大本、恒本にはなし。 c 「即」、大本にはなし。 d 恒本は「二」に作る。 e 「其逆行」以下、大本にはなし。 f 恒本は「守」に作る。 g 「民小厲」、恒本は「歲小熟」に作る。 h この一文、大本にはなし。

- 249 填星守角、五穀多傷、人民流亡。^a「卷39」
- ⑨4 土守角……五穀傷、人流亡。「卷8」
- 250 填星守左角^b、右角^c、其色潤澤、即歲大熟。其逆行、從一宿得二宿、穀貴一倍。從二宿得三宿、三倍。其還立賤。^d「卷39」
- ⑨5 土守右角^e、其色潤澤、歲熟。「卷8」
- 251 填星^f左右角^g、其色黃、小旱、民小厲、其逆行、即早。其退、立雨。^h「卷39」
- (74) 填星犯守兩角、其分野穀傷、民流亡、期八十日。「卷11」
- (75) 填星守犯兩角、經五運五夕、客星竝守角、其分野小人與諸侯印逆、天子誅四面、期二年。「卷11」
- 252 填星守^a亢北、水在北方。「卷39」
- 253 填星守若舍^b亢、爲五穀頗不成。^c「卷39」
- 254 填星入守^a氏、必有亡城者。天下用兵、期不出三年、更立侯王。八十日不下、野有萬人之衆。「卷39」
- 255 填星守^a房、爲土功。「卷39」
- 256 填星入^a房、若犯之、有失地君、其國有兵、若女主憂。^b「卷39」
- ⑨6 土^a房若犯之、有失地之君、其分國有兵、女主憂。「卷9」
- 土入^a房若犯之、有失地之君、其分國有兵、女主憂。「大本、卷39」
- (76) 填星逆行守^a房、其分野兵起、繫貴、不出一年。「卷14」
- a 「功」の後、大本には「又曰有大赦其國有兵又曰人

主無下堂又爲天下諸侯相謀慮道不通又曰胡兵發又曰南爲早北爲水竝在宋地」とあり、恒本には「一曰人主無下堂又爲天下諸侯相謀慮道不通又爲邊兵發一云南爲早北爲水竝在宋地」「墳星守房爲天下飢人相食死者不葬」とある。 b 「地若」、大本は「地之君」に、恒本は「地若」に作る。 c 「主憂」、大本は「主有憂」に作る。

257 墳星犯天王、王者絶嗣。犯太子、太子不得代。犯庶子、庶子不利。^a〔卷39〕

a この一文、大本にはなし。

258 墳星出入留舍心、二十日不下、且有急令。三十日不下、有名人死者。^a四十日不下、其國大空、民亡、去其室堂。^b〔卷39〕

259 墳星留逆犯守乘凌心、王者宮内戰亂、臣下有謀易立天子、權在宗家得勢大臣。〔卷39〕

⑨7 土逆行守心……天子宮中有賊臣、謀易主。〔卷10〕

a 「者」、大本にはなし。 b 「其室堂」、大本、恒本は「有空室」に作る。 c 恒本は「陵」に作る。 d 「王者」、大本は「者王」に作る。 e 「内戰」、大本は「有内賊」に作る。

260 墳星守尾、高田不得食。下田荒、人民飢。^a〔卷39〕

⑨8 鎮星守尾、……高田不得食。下田荒、人大飢。〔卷10〕

⑦7 墳星入留舍尾、經廿日已上、其分野出大將軍者、不出半周。〔卷16〕

a 「荒」、恒本にはなし。

261 墳星守箕、有大喪、有土功事。^{a b}〔卷39〕

⑨9 鎮星守箕……有大喪、土功興。一曰、人主有謀。〔卷10〕

262 墳星出入舍守箕、兵大起。〔卷39〕

⑦8 墳星出入箕星、兵起、有水災、多虫蝗、不出半周。〔卷17〕

a 大本は「工」に作る。 b 「事」の後、大本には「一曰有水災因之起兵五穀萬物不成」「一曰人主有陰謀事」とあり。

263 墳星守牽牛、爲牛多疾。一曰、兵起凶、關東憂、雨雪、大人疾、民人疫。^b〔卷40〕

⑩0 鎮星守牽牛……兵起、憂寒、人疫。〔卷11〕

⑩0 鎮星守牽牛……雨雪、人飢。〔卷11〕

264 墳星守須女、陰山水出、廬宅壞、天下多土功事。〔卷40〕

⑩2 土守須女、之陰山水出、壞城廓、天下多土工。一曰、后有子喜、土入女、天子納美女。土逆行女、天子不親政事。〔卷12〕

(79) 填星守須女、色赤青、經七十日不下、其國山崩、水出、宅壞、天下多土功事。〔卷20〕

265 填星守虛、人民不安、多妖言。〔卷40〕

⑩⑧ 鎮星守虛……人不安、多妖言。〔卷12〕

266 填星入虛、犯守之、當有急令。星行疾而入、必有客兵、斧鑕用、不出其年。〔卷40〕

a 大本は「蘆」に作る。 b 「星」、大本にはなし。 c 「兵斧鑕」、大本は「斧鉞」に作る。

267 填星守犯、兵起南方。一曰、野物入國庫、人君戮、有土功、為旱、五穀不實、民人不安寧、民流亡、且有疾。〔卷40〕

⑩④ 鎮星守危……兵起南方、野物入國、民流亡。〔卷13〕

268 填星入危、留守之、其國破亡、有流血、將軍戰死、亡地五百里、必有徙王、期三年。〔卷40〕

⑩⑤ 土入危而留守之……其國破亡、有流血、將軍戰死、亡地五百里、有徙王、期三年。〔卷13〕

⑩⑥ 土逆行危、女主先不謹。〔卷13〕

a 「犯」、恒本は「犯危」に作る。 b 大本は「民」に作る。

269 填星守營室南、則主賜金錢。〔卷40〕

a 「南則」、恒本は「而角」に作る。

270 填星潤澤出奎、有善令。其變色入奎、有偽令來者。若出奎、有偽令、出使者。〔卷41〕

a 「其變色」、大本は「變色其」に作る。 b 「偽」、大本は「偽偽」に作る。

271 填星之婁、五穀豐熟、人民息、天下安。〔卷41〕

(80) 填星犯守婁、五穀豐、人民息、天下安平。〔卷26〕

272 填星出入留舍婁、天下且起兵。一曰、外國兵來、入邊。〔卷41〕

⑩⑦ 土之婁……五穀熟。若守之、不失其行、天子憂賢、下士同心。〔卷14〕

a 恒本は「守」に作る。 b 「來入邊」、大本は「來入」に、恒本は「大入」に作る。

(81) 填星入乘贏華、經歲、其邦貴人多軍、出戰必勝。〔卷29〕

(82) 填星暈齋、再重有珥、天下大風、萬物傷、雷電不止、不出二年。〔卷30〕

273 土星守參、軍破國亡。〔卷41〕

⑩ 鎮星守參……其下軍破國亡。一曰、后夫人當之。一曰、大臣出使、有外兵。〔卷16〕

⑩ 鎮星入守河鼓……大將有錫土受封者。若犯之、將軍憂。〔卷28〕

274 鎮星守輿鬼、出其東、水。出其北、旱。〔卷42〕

280 鎮星入五車、兵大起、車騎行、五穀不成、天下民飢、若軍絕糧。〔卷43〕

· 大人憂、宗廟改。一曰、王死、又爲大人有祭祀之事。〔大本、

卷42〕

⑩ 鎮星入五車……兵火起、車騎行、五穀不成、天下飢、軍絕糧。〔卷31〕

275 鎮星守柳、宮中大亂以相驚、若有土功事。〔卷42〕

〔卷31〕

⑩ 鎮星守柳……宮中大亂、相驚、有土工事。一曰、女主不敬祭祀、多水災。〔卷18〕

281 鎮星犯天牢、王者以獄爲弊。貴人多有繫者。〔卷43〕

276 鎮星犯守大角^a、臣謀主者有兵起、人主憂。王者戒慎左右、期不出百八十日、遠一年。〔卷43〕

282 鎮星犯守龜星、天下有水旱之災。守陽、則旱。守陰、則水。〔卷44〕

a 「守」、恒本にはなし。 b 恒本は「若」に作る。 c 「百八十日」、大本は「百八十」に、恒本は「二百八十日」に作る。

277 鎮星守候星、陰陽不和、五穀傷、人大飢、有兵起。〔卷43〕

283 鎮星入杵星、若守之、天下有急發米之事、不出其年。〔卷44〕

a 「人」、恒本は「人民」に作る。

a 「米」、大本にはなし。

278 鎮星守建星、田宅大貴。一曰、在陽賤。在陰貴。〔卷43〕

284 鎮星入守羽林、有兵起。若逆行變色、成勾己、天下大兵、關梁不通、不出其年。〔卷44〕

279 鎮星入河鼓、大將有受賜地者、期百八十日、遠一年。〔卷43〕

285 鎮星守土司空、其國以土起兵。若有土功之事、天下旱。〔卷44〕

44

a 大本は「玉」に作る。

286 填星守**參旗**、兵大起、弓弩用、士將出行。一日、弓矢貴。^a「卷

44

a この一文、大本は「黄帝占曰」として引用し、「守」は「犯」に、「用士」は「用事士」に作る。

太白占

287 太白光明、見影。戰當太白者、將軍增爵、主增壽。「卷45」

288 太白色赤、淳得食。白、淳有喜。蒼、憂。蒼黑、爲死。「卷

45

289 太白十二芒鉤、不可以戰。「卷45」

290 太白有五角、立將帥。^d六角、有取國地。七角、伐王。「卷45」

⑩ 太白五角、有立將。六角、有取國。七角、成王。四角、有赦。

三角而動、有反城、胡兵起。「卷7」

291 主好聽讒、廢直大臣、女子爲政、刑法誅殺、不以道理、則太

白逆行、天鳴地坼、歲多暴風、大水、庶民負子而逃、孕多死、

麥豆不收。^h「卷46」

292 太白出、不上不下、留桑榆門。ⁱ病其下國。^j「卷46」

⑪ 戰而太白當其軍上、有光勝。太白變色而逆行、不可戰。「卷

7

a 恒本は「浮」に作る。 b 「蒼」、大本にはなし。 c

大本は「世」に作る。 d 「帥」、大本にはなし。 e

大本は「奸」に作る。 f 「讒」、大本は「讒言」に作

る。 g 「風大」、大本は「風而大」に作る。 h 「收」、

大本にはなし。 i 恒本は「東」に作る。 j 「病其下

國」の句、大本は「晉灼曰」として引用。

293 太白犯**右角**、將軍有憂、若兵起。一日、有旱災。「卷47」

294 太白守**左角****右角**、其色黃白、小旱、民小厲。其逆行、即旱。

其還、立雨。羅如故。「卷47」

⑫ 太白守**左角**、色黃白、小旱。逆行、太旱。其復也、即雨。「卷

8

295 太白守**角**、爲兵、西北行、其色黃、大臣增地。赤色、臣欲反

其主。「卷47」

⑬ 太白守**角**……兵西行。太白色黃、大臣有喜色。赤、臣欲反主。

「卷8」

(83) 太白守**右角**、其分、兵西北連。色黃、大臣益地。色赤、臣欲

反其主。「卷11」

296 太白犯守**左角**、大人自將兵於野、臣有謀主者。「卷47」

(84) 太白乘**右角**、其分野外兵竝連起、不出一年。「卷11」

(85) 太白守**左角**、其色黃而經九十日、又逆行、失度在**豔**、留一旬、

君臣不和、天下諸侯爭位、百姓飢、大水傷穀、不出一年。「卷

a 「白小」、恒本は「白則小」に作る。 b 大本は「故」に作る。 c 「犯」、大本にはなし。

297 太白入^元、有喪。〔卷47〕

298 太白守^氏、有兵不行在西南。〔卷47〕

⑩⁶ 太白守^氏……兵起而不行。〔卷9〕

• 天下大旱、所在不收。〔後漢書〕天文志、劉昭注^a

a 「閏月辛亥、水金俱在氏」の注。

(86) 太白居^舍房^星、其國有大喪、大臣戮死者、不出一年。〔卷14〕

299 太白入^鉤鈴^a、王室大亂。〔卷47〕

a 大本は「鈴」に作る。

300 太白入^心、有白衣之衆、又爲喪。〔卷47〕

301 太白犯^心、天子立、后絶嗣、犯^{太子}太子、太子不得代、犯^{庶子}庶子、

庶子不利。〔卷47〕

⑩⁷ 太白犯^心……天子絶嗣、犯^{太子}太子、太子不立、犯^{庶子}庶子、庶子憂。

〔卷10〕

302 太白守^心、不出一年、有大兵、多禍殃、在貴人傍。〔卷47〕

⑩⁸ 太白守^心……不出一年、貴臣、左右有大兵。〔卷10〕

a 「后絶」、恒本は「後乏」に作る。 b 「得代」、大本は「得伐」に作る。 c 「庶子庶子」、大本は「庶子」に作る。

(87) 太白入^守居^舍尾、經一句、其國以水兵大戰、不出二年。〔卷16〕

16

303 太白守^箕、天下有兵。若角動、天下無所定。〔卷47〕

⑩⁹ 金守^箕……天下有兵。若角動、天下無所定。〔卷10〕

304 太白入^南斗、將相有黜者。一曰、有被殺者。〔卷48〕

⑩¹⁰ 太白入^斗……將相有殺者。〔卷10〕

305 太白入^牽牛、爲天下牛車有急行。〔卷48〕

⑩¹¹ 金入^牛……天下牛車急行。〔卷11〕

306 太白提^牽牛出入、萬物死。〔卷48〕

307 太白出入留^舍牽^牛、三十日不下、牛大貴。〔卷48〕

308 太白犯^守牽^牛、諸侯不通。〔卷48〕

309 太白守^天閼、二十日、大赦。〔卷48〕

310 太白守^牽牛、其國兵起、期六十日。又曰、妖言無已。〔卷48〕

311 太白守^牽牛、爲犧牛疾疫。〔卷48〕

⑩¹² 太白守^牛……有赦。〔卷11〕

128 金犯牛……關梁道路不通、國易政、將軍爲亂、大人憂、國大兵。〔卷11〕

a 「牽牛」、恒本は「牽牛中」に作る。 b 大本は「關」に作る。 c 「其國兵」、大本は「兵章竝」に作る。

312 太白守須女、兵起鏘鏘、東北行、有嫁女娶婦之事。〔卷48〕

88 太白守須女、經七十日、一運二夕、兵起、有嫁女之事、不出三年。〔卷20〕

a 恒本は「乘」に作る。

313 太白入虛、不出九十日、有大赦、遍天下、天下欲從。〔卷48〕

124 金入虛……不出九十日、有大赦。〔卷12〕

314 太白提虛出入、大臣謀主、政急。〔卷48〕

125 太白出入留舍虛……君令急大、有陰謀。〔卷12〕

315 太白守虛、兵起東北、敵人出、楚吳亦然。〔卷48〕

126 太白守虛……東兆胡爲寇、吳楚兵大起。〔卷12〕

a 「敵人」、大本は「明大」に作る。 b 「東北」以下、恒本では注に作る。

89 太白亭運留東辟、經歲、其國三公專執政、民不安、不出半周。

〔卷24〕

90 太白暈東辟逆行、其國婦女多死、期三月。〔卷24〕

316 太白出奎、起兵於國外。〔卷49〕

317 太白潤澤出奎、有善令。變色入奎、有僞令來者。若出奎、有僞令、出使者。〔卷49〕

318 太白守奎、出復入、糴貴、人流、食貴。〔卷49〕

319 太白守奎、以水起兵國中。〔卷49〕

320 太白守奎、兵起、凶。一日、聖人出。一日、徭大起。〔卷49〕

127 太白守奎……國以水兵起。又曰、徭役大起、聖人出。〔卷14〕

a 「國外」、大本は「外國」に作る。

91 太白守婁星、其國小旱、萬物不成。〔卷26〕

321 太白入胃中、守之、有喪。〔卷49〕

322 太白守胃、有德令、兵革不用、有兵兵不用。〔卷49〕

128 太白守胃……有兵不用、有德令。〔卷15〕

a 「有」、大本にはなし。 b 大本は「得」に作る。

323 太白守昴、將軍有聚衆。〔卷49〕

129 太白守昴……將軍有聚衆。〔卷15〕

a 大本は「百」に作る。

92 太白陵亭犯留畢星、疾行運行入壘口中、其分大兵起、流血、

大臣與將攻擊、期百廿日。〔卷29〕

a 「口」、右横に小字で記入。

324 太白犯守附耳、國有讒亂之臣在主側、以收獵惑主者、若相有喜。〔卷49〕^a

93 太白犯守附耳、其國有讒言、内亂、佞臣在主側、以田獵惑主者。若相有喜。〔卷29〕

a 「之」、大本にはなし。 b 「主」、恒本にはなし。

94 太白守運鬚星、經八十日、不出三年、愍帝印發死。〔卷30〕

325 犯參、有大兵、將行。〔卷49〕^a

326 太白守參、若大水、在西方。〔卷49〕

⑬ 太白守入參……大水、西方尤甚。一曰、爲旱、火之灾、王者失位、國易政。一曰、有伐國。〔卷16〕

95 太白守參伐、大水在西方、衛尉將死、期半周。〔卷31〕

96 太白暈參伐、以九月地動、多水、山崩、女主有喪。明年、五穀不登、萬民逃遁。〔卷31〕

• 爲旱。太白守參、國有反臣。〔後漢書〕天文志中、劉昭注^b

a 恒本は「天」に作る。 b 「二月癸酉、金火俱在參」の注。

⑬ 太白犯井……人主浮船。〔卷17〕

328 太白守輿鬼、出其南、水、出其北、旱。〔卷50〕^a

⑬ 太白出其南、爲水、出北、爲旱。〔卷17〕

a 「南水」、大本は「南主水」に作る。 b 「北旱」、大本は「北主旱」に作る。

329 太白逆行入柳、成鈞巳、下刑上、臣謀主、民有怨仇、多暴死。〔卷50〕^a

330 太白守柳、兵大起、一歲罷、若小旱、傷五穀。〔卷50〕^c

⑬ 太白守柳……兵大起。一曰、歲罷。〔卷18〕

a 大本は「紀」に作る。 b 恒本は「愁」に作る。 c 「五穀」の後、大本には「田禾」とあり。

97 太白入暈七星、再重太陽弱、有變臣、期三年。〔卷35〕

331 太白去翼一尺、翼陽也、太白金陰也、陰來附陽、秦朝楚。〔卷50〕^a

⑬ 太白去翼一尺……太白陰也、陰來附陽、秦當朝楚。〔卷19〕

a 「朝楚」、大本は「朝楚暮」に、恒本は「當朝楚」に作る。

327 太白犯東井、人主浮船。〔卷50〕

332 太白犯軫、將軍爲亂、其國兵起、臣欲謀君、賊人謀貴人、兵

「吏有憂」に作る。

死。一日去之一尺、天下大飢、期不出百八十日。〔卷50〕

333 太白守軫、兵車、四夷兵起。〔卷50〕

339 太白守王良、三十日、大將亡。一日、主將皆大亡、兵起、車

騎行、期百八十日、遠一年。〔卷51〕

a 「貴」、恒本は「鬻」に作る。 b 「兵死」、恒本は

a 「大亡」、大本は「亡大」に、恒本は「亡」に作る。

「死於兵」に作る。 c 「百」、大本は「二百」に作る。

340 太白入守天船、國有喪、貴臣有戮、期二年。〔卷51〕

334 太白犯守大角、臣謀主、有兵起、人主憂、王者戒慎左右、期

a 「期二年」、大本は「期不出二年」に作る。

不出百八十日、遠一年。〔卷51〕

341 太白犯卷舌、有奸亂之變。若人之、臣有妄言於君者、若讒臣

謀君、以口舌起兵而亂國者、期百二十日、若一年。〔卷51〕

335 太白入天市、國有謀兵、將相有戮死者、期百八十日。〔卷51〕

a 大本、恒本は「姦」に作る。 b 大本は「或」に作

⑬⑤ 太白入天市……國有兵謀、將相有戮死者。〔卷21〕

る。

336 太白犯帝座、大臣爲亂、強臣謀主、有兵、期不出年。〔卷51〕

⑨⑧ 太白出入五車中、朝廷有暴兵、諫臣大起。〔卷41〕

342 (太白提天關)の注)地氣泄、生相害、萬物大傷。〔卷51〕

337 太白犯守候星、陰陽不和、五穀傷、人民大飢、有兵起。〔卷

343 太白守天關二十日、大赦。一云、臣誅主、歲水。一日、守之

51〕

二十日、兵甲鏘鏘、以水行。〔卷51〕

a 「五穀傷」、大本は「五穀不熟禾傷」に作る。

⑬⑥ 太白守天關……臣謀主、歲大水、守之二十日、水兵大起、有

大赦。〔卷31〕

338 太白犯天津、關道絶不通、有兵起。若關吏憂。〔卷51〕

344 太白守犯天關、道絶、天下相疑、有關梁之令。〔卷51〕

a 「道絶」、大本は「梁」に作る。 b 「吏憂」、大本は

a 「地」の前に、大本には「提者」とあり。 b 恒本

は「謀」に作る。 c 「鏘鏘」、大本は「將興」に作る。
d 「關」、恒本は「關關」に作る。

345 太白守南河戍、邊臣有謀。^a [卷51]

⑬7 太白守南河……邊臣有謀、諸侯起兵、君憂敗亡。 [卷32]

a 大本は「戒」に作る。 b 「謀」の後、恒本には「若諸侯兵起君憂若敗亡」とあり。

346 太白守端門、若至帝座星南、禍小。若犯黃帝座、臣弑主、天

下大亂、不出年。^a [卷51]

a 「出年」、大本は「出其年」に作る。

347 太白入守羽林、有兵起、若逆行變色、成勾已。^a 天下大兵、關

梁不通、不出其年。^b [卷52]

a 大本は「紀」に作る。 b 「出」、大本にはなし。

348 太白守北落、天下有兵、夷狄入塞、來侵中國、將士出。 [卷

52]

⑬8 太白入守北落師門……天下有兵、夷狄入塞、北犯之、占同熒感。 [卷29]

349 太白守王司空、其國以土起兵。若有土功之事、天下旱。 [卷

52]

a 「有」、恒本にはなし。

350 太白入天園、天下兵起、諸侯謀、困倉庫藏有破者。 [卷52]

351 太白守參旗、兵大起、弓弩用、將士出行。一曰、弓矢貴。 [卷

52]

a 「用將士出行一曰」、大本は「大用大將出人生憂」に、恒本は「困將士出行一曰」に作る。

352 太白犯天稷、有旱災、五穀不登、歲大飢、五穀散出。 [卷52]

a 「有旱災」、大本は「主大旱」に作る。 b 「飢」、大本は「飢荒」に作る。

(99) 太白吞犯九州、大臣有罪咎獄囚、期八十日。 [卷49]

(100) 太白守天節、大將以兵相攻擊、血流、君軍負、不出半周。 [卷

49]

辰星占

353 辰星出四孟、爲月食。出四季、彗星。 [卷53]

354 主好破壞名山、壅塞大川、通谷、名水、則辰星不出。歲大旱、

草木不長、禽獸牛馬不蕃、五穀不滋、民多病、體癰疽。^e〔卷

53〕

355 辰星逆行一舍、以其時水出。^g〔卷53〕

a 「季」、大本は「季爲」に作る。 b 「主好」、恒本は

「則生妖」に作る。 c 「則」、恒本にはなし。 d 「歳」、

恒本は「歳則」に作る。 e 大本は「患」に、恒本は

「休」に作る。 f 「疽」の後、大本には「不出五十日」

とあり。 g 「出」の後、大本には「爲災」、恒本には

「辰星失度不救必有逆主之謀其救也明刑慎罰審法心中

無縱繕治城郭可以聘十乘賢廣思行惠則災消矣」とあ

り。

• 天下大旱、五穀不収。 一曰、大水。〔大本、卷54〕

• 天下大旱、所在不收。〔後漢書〕天文志、劉昭注^a

• 辰星守^氏、不七日、有水。守十八日、有兵大起。〔大本、卷

54〕

a 「閏月辛亥、水金俱在氏」の注。

139 水入^房、人民有漂流死者。又曰、馬貴。〔卷9〕

140 辰心犯^心、或乘之……民去其鄉、大雨不可。〔卷10〕

141 水星守^尾……兵起、事成下、淺易貴。〔卷10〕

100 辰星入留^尾第八星、經五十日、后皇管政讒妄竝連、大臣隱匿、
不出五年。〔卷16〕

356 辰星守^{牽牛}、歳多水。民歸兵陵、齊燕尤甚。〔卷55〕

142 水守^牛……大水、民棲丘陵、齊燕尤甚。〔卷11〕

a 「歸兵陵」、大本は「爲兵凌」に、恒本は「歸邱陵」
に作る。

357 天下大雨、無濟者、至關東盡然。〔卷55〕

143 辰星守^女……天下多雨水、津梁絶不通。〔卷12〕

102 辰星守留^{須女}、天下多水、不出一年。〔卷20〕

a 「雨水」、大本は「雨水」に、恒本は「水」に作る。

b 「無濟者至關東盡然」、大本は「津梁不通」に作る。

358 辰星守^虛、有兵災。丁壯行^徭、妻子獨居、萬室^虛。 一曰、春
旱秋水、五穀不成。〔卷55〕

a 丁壯行^徭、妻子獨居、萬室^虛。 一曰、
春旱秋水。〔卷12〕

144 辰星守^虛……有兵。丁壯行、寡婦女獨居、萬徭室空^虛。 一曰、

春旱秋水。〔卷12〕

145 水中犯凌乘^虛……春旱秋水、五谷不成。若冬守其陽、色赤黃

爲旱、萬物不成、天下兵亂。〔卷12〕

a 「徭」、大本は「徭役」に作り、恒本にはなし。 b

大本は「女」に作る。c 「室」、大本は「空室」に、
恒本は「室皆」に作る。

(106) 辰星入畢中、有兵、大將與大臣相攻撃、不出半周。〔卷29〕
a 「中」、恒本は「中爲」に作る。

359 辰星守危、天下兵大發。〔卷55〕

363 守觜中、有兵。〔卷56〕

(103) 辰星守乘東辟、其國秋多寒、民病癘、期一月。〔卷24〕

364 守伐、衛尉當之。〔卷56〕

360 辰星潤澤出奎^a、有差令^b。變色入奎、有爲令來者。出奎、有爲令出使者。〔卷56〕

365 守輿鬼、出其南、水、出其北、旱。〔卷57〕

a 「奎」、大本は「入奎間天子」に作る。 b 「差令」、

(147) 水守鬼、出其南、水、出其北、旱。〔卷17〕

大本は「善令偃武修文若」に、恒本は「盜令」に作る。
c 恒本は「僞」に作る。

(108) 辰星守入輿鬼、貴人有慘、貴百八十日。〔卷32〕
a 恒本は「臣」に作る。 b この一文、大本にはなし。

(104) 辰星乘舍居婁、經旬、民自相攻撃、流血、道中多死、不二年。〔卷26〕

367 入天庫^a、以水起^b。〔卷57〕

(105) 辰星廻運暈婁、其國五穀不生絲麻、大、人多死、不出二年。〔卷26〕

(148) 水入柳……以水起兵。〔卷18〕
a 「入天庫」、大本は「辰星入柳天庫者」に作る。 b 「起」、大本は「起兵」に作る。

361 民人大飢、亂。〔卷56〕

368 大臣凶、貴人有罪、若法官有憂。〔卷57〕

(146) 辰星守胃……民爲亂。〔卷15〕

a 大本は「執」に作る。

362 入壘中^a、有兵。一曰、歲熟。〔卷56〕

369 有兵災、若大水在北方、五穀不成。〔卷57〕

⑭ 辰星守翠……大水災在北方。「卷19」

a 大本は「或」に作る。

370 辰星守天角、臣謀主。有兵起、人主憂、王者戒愼左右。期不出百八十日、遠一年。「卷58」

出百八十日、遠一年。「卷58」

371 辰星犯守候星、陰陽不和、五穀傷、人民大饑、有兵起。「卷58」

58

a 「傷」、大本は「不成」に作る。

372 辰星犯天津、關道不通、有兵起、若關吏有憂。「卷58」

a 「犯」、大本は「入犯乘守」に作る。 b 大本は「梁」に作る。 c 大本は「及」に作る。

373 兵大起、車騎行、五穀不成、天下民饑、若軍絕糧。「卷58」

374 辰星守犯天關、道絶、天下相疑關梁之令。「卷58」

375 辰星犯守龜星、天下有水旱之災。守陽、即旱。守陰、即水。

〔卷59〕

376 辰星入枏星、若守之、天下有急發之事、不出其年。「卷59」

a 「入」、大本は「入守犯」に作る。 b 「若守之」、大本にはなし。 c 「之事不出其年」、大本は「粟期年内」に、恒本は「之事不出期年」に作る。

377 入犯守羽林、有兵起。若逆行變色、成勾已、天下大兵、關梁不通、不出其年。「卷59」

不通、不出其年。「卷59」

a 「行」、恒本にはなし。

378 辰星守土司空、其國以土起兵。若有土功之事、天下旱。「卷59」

59

a 大本は「工」に作る。

379 辰星守參旗、兵大起、弓弩用、士將出行。一曰、弓矢貴。「卷59」

59

380 辰星守天稷、有旱災、五穀不登、歲大饑。一曰、五穀散出。「卷59」

〔卷59〕

a 「守」、大本、恒本は「犯守」に作る。 b 「有旱災」、大本は「主大旱」に作る。 c 「歲大饑」、大本は「大飢荒」に作る。

飢荒」に作る。

東方七宿占（角、亢、氏、房、心、尾、箕）

(109) [左角]三日不見、下臣謀上臣殺主、不出二年。〔卷11〕

(110) 黑氣出[石角]、其分戰負、不出七十日。〔卷11〕

381 [亢]三光也。三公之事。下者、地也。中央者、丞相也。主享祠。

一曰、亢亦爲疏廟。一名天庭、主火與疾、故亢龍多疾。〔卷

60〕

382 [亢]星齊明、宗廟有敬、朝廷有序。星不明、則輔臣失次、君令

不行。〔卷60〕

(15) [亢]者天帝廟、宮天子內朝。中央丞相也。主享祀主疾。亢星齊

明、則宗廟有敬、朝廷有序、輔臣盡忠、民無疾病。亢星不明、

則輔臣失職、君令不行、有內亂、動搖疏拆、或移徙、則人疾

病。垂芒、則國政錯亂離落。位直、則兵起有戰。不見、則水

旱爲災、天下鼎沸。〔卷8〕

383 [亢]星不明、王者內亂。星明大、輔臣納忠、天下平安。〔卷60〕

384 [亢]爲朝廷布政宮。〔卷60〕

(111) [房]星暈七重有珥背、其分野后妃淫泆死、諸侯印封、天子相攻、

不出三年。〔卷14〕

(112) 赤黑白氣入[尾]、其邦有兵。〔卷16〕

a 「亦爲疏廟」、大本は「名府疏庭」に、恒本は「一名

天府一名疏廟」に作る。b 大本は「動」に作る。c

「星明」、大本は「星若明」に作る。d 「安」の後、大

本には「亢星明大民無疾疫亢星乘芒爲亂錯亢星離落位

直天子動旅而卒戰於野亢爲疾國有疾占在亢」とあり。

e 「亢」の前、大本には「秋分視亢不見五穀盡傷羅貴

二倍亢爲朝廷總領四海故置平星以疏理」とあり。f

恒本は「官」に作る。

北方七宿占(斗、牛、女、虛、危、室、壁)

(113) [須]女色黑赤、東南星青乍羸息者、大國大飢、民流亡。〔卷20〕

(114) [東]辟七變運夕、失位、經六辰、下臣凶、反強兵謀誅其天子、

不出二年。〔卷24〕

(115) 黑氣出[東]辟中、有兵憂。〔卷24〕

(116) 白赤黑氣如席狀入[東]辟、繞女后、後宮在伏兵、謀其君、不出

一年。〔卷24〕

西方七宿占(奎、婁、胃、昴、畢、觜、參)

385 天子孝、則[婁]星明大、天下太平。〔卷62〕

(117) [婁]星象明暉、天子孝、則[婁]星明大、天下和平。〔卷26〕

(118) [婁]星晝見、逆臣印吞、天子欲變。〔卷24〕

386 [胃]星明大、王者須祀、則壽命長、子孫昌。〔卷62〕

(119) [畢]星暈二夕一運、其國有賢臣、天下政正平。〔卷29〕

(120) 黃白氣入[畢]中、其歲大人、必有生者、天下有喜。出畢、天子

出、田饗民。〔卷29〕

(121) [觜]星近[參]左肱、臣謀其君、若執主之命奪、主之威。近右肱、

大臣謀伐其君、若有大命。〔卷30〕

(122) 𩇑星不視、君臣不明、大將有两心、不出一年。〔卷30〕

(123) 黑白氣入𩇑中、其國王侯、有疾軍敗、大將有憂。〔卷30〕

(124) 蒼白氣入參、馬爲亂。出若環繞參、天子起邊城。〔卷31〕

a 「天」の前、大本、恒本には「婁星動有聚衆之事」とあり。 b 恒本は「者」に作る。 c 恒本は「修」に作る。

南方七宿占（東井、鬼、柳、七星、張、翼、軫）

387 井鉞一星、司淫奢。其星不欲明、明則斧鉞用、以斬伏誅之臣。

〔卷63〕

388 張星不明、王者少子孫。〔卷63〕

石氏中官占

389 七公、七輔也。上星、上公。次星、次公。下星、下公。各以

其次第齊明、輔臣居其常職。其星不明者、各以其次、輔臣有黜、若有罪、期不出年。〔卷65〕

390 東咸西咸、星明而行列、王者威令行、妃后守其宮。其星微小、

而不行列、若亡不見、人主威弱、女主自恣、奢淫無度、防守者憂。若宮人有罪。一曰、貴女有黜者。〔卷65〕

391 斗建者、陰陽始終之門、大政升平之所、起律曆之本原也。〔卷

65〕

392 駟馬不動、天治安宮。〔卷65〕

393 天將軍星動搖、天子自將兵出。〔卷66〕

(15) 天大將軍動搖、則天子自將、將其左右星曰旗、芒角所指者敗。

一曰、天大將軍明、則將武兵精、暗則兵羸將祛。星亡則將死。

〔卷30〕

• 大將軍搖動、則天子自將兵、左右旗、芒角所指者敗。一曰、明則將武兵精、暗小則兵羸將弱、木入大將吉、火金土入守、兵起、彗孛出天將反犯之、將軍死、敗散也。〔武備志〕卷156

(125) 三光失節南北門度、登不入、天下内亂、下賤管政、直臣爲黜。

〔卷41〕

(126) 三善上階不見、指逆動搖、太子有謀。〔卷43〕

(127) 輔星斗避運鬲色、亡其國、貴人多死、赤地千里。〔卷44〕

a 恒本は「中」に作る。 b 恒本は「占」に作る。 c 大本、恒本は「依」に作る。 d 恒本は「主」に作る。

e 恒本は「名」に作る。 f 「始終」、大本、恒本は「終始」に作る。 g 恒本は「七」に作る。 h 大本は「源」に作る。 i 大本、恒本は「四」に作る。 j 「天將」、大本は「天大將」に作る。 k 「動搖」、恒本は「搖動」に作る。 l 「自將兵」、大本は「自兵將」に、

恒本は「有將兵」に作る。

(128) 漸臺色奄登昌光、其國邑小子爭鬪、起樓亭登辭、天下大驚、

三陰二會、有兵起。〔卷48〕

石氏外官占

394 積卒^a不如其故、兵其微細、若不見、兵車盡出、士卒滿野。^b「卷68」

395 魚星中河而居、而明大、天下大水、津道塞。若微小、出河、中外天下大旱、五穀不成。^c「卷68」

⑮ 魚星中河而居、則天下大水、津道塞。若出河外、則天下大旱、五穀不成。一曰、魚亡、則少魚。「卷27」

(129) 天倉左二星、登上顛亡、不出一年、其國兵飢、人流亡。「卷46」

(130) 屏星登奄、民飢、兵革行。「卷46」

(131) 天廁色黃、君德昌、亦兵象視。蒼黑、大水滿道中、天下疾病。「卷46」

(132) 狐星暈二星、五穀貴、民飢、二旬。「卷46」

(133) 老人以冬不見、天下大戰、先舉兵勝、後兵大敗、不出一年。^d「卷46」

a 「兵其」、恒本は「其兵出」に作る。 b 「卒」、恒本にはなし。 c 「河中」、大本は「河河之中」に、恒本は「河之」に作る。 d もと「星」に作り、年と訂正。

甘氏中官占

(134) 河鼓左旗奄亡吞填星、失度留、經二旬、大將驚率武、大戰、益地。「卷48」

(135) 九卿色赤、廻位運亡、女主執政、失道、不出一年。「卷48」

(136) 月星光一辰見、七辰不見、賢臣出、善令、則死、天下民人哭、臣不見。「卷48」

甘氏外官占

(137) 狗星奄竟者、天下狗多死、咋人狂走。「卷49」

(138) 土公史具不見、經二旬、左右尉亭臣有廁、府中儲兵、不出一旬。「卷49」

(139) 天狗不視、五將無勢、國邊軍大敗。「卷49」

巫咸内外官占

(140) 軍門發奇不見、強軍侵勞門、不出半周。「卷50」

(141) 鉦頭微細奄亡乍不明、主弱、臣奪君、令不行。「卷50」

(142) 帛度彰登、經六十日、諸侯婦賣買、有憂。「卷50」

(143) 天陰不視、女黨淫亂、起近臣通、期二年。「卷50」

流星占

396 流星有聲如雷、其音止地、野雞盡响、名曰天鼓。其所止國、兵大起、必有戰、殪尸滿野、期三年。「卷71」

397 名曰否顛。見則其國必有大戰、流血積骨、期一年、遠二年。^c「卷71」

398 流星紛紛、交行耀目。人君自貴、視臣如草。^f土臣欲有離散之^g

象也。期不出二年。〔卷71〕

399 流星入月中、星無光、不出其年、亡國。星出、亡國復立。〔卷71〕

⑬ 流星出月中、不出其分國亡。若星復出、則國亡復立。〔卷36〕

(144) 彗星流星入月中、星无光、不出一年、國亡。若星出、其國滅亡。〔卷5〕

400 使星入月中、女主疾。〔卷71〕

a 大本は「正」に作る。 b 恒本は「僵」に作る。 c 恒本は「二」に作る。 d 恒本は「三」に作る。 e この一文、大本には無し。 f 大本は「更」に作る。

g 大本、恒本は「人」に作る。 h 「亡國」、恒本は「國亡」に作る。 i 「疾」の後、大本には「又彗星入月中有臣謀其君」「又使星入月内有君失地者」「又曰使星入月中無光將軍戮期十年」とあり。

(145) 角東亭入大流星、經三辰、則女后淫泆、天子與臣擊伐、其臣流千里、小人爲政、不出五年。〔卷11〕

401 流星入元中、幸臣有自殺者、期一年。〔卷72〕

402 流星絶鈎鈴^a、主有奔馬則敗。〔卷72〕

(146) 流星絶鈎鈴、其主犇馬之敗、不出一年。〔卷14〕

(147) 流星出從中入房、曰道強、兵暴内國、堺來大戰、期六十日。〔卷17〕

403 流星入南斗、當有隣國使來、不出百八十日。〔卷72〕

⑮ 流星入虛、兵聚其下。〔卷12〕

(148) 流星出婁入胃中、於河中流、多死者、期八十日。〔卷26〕

404 流星入畢、其君有大憂、先起兵者、兵破亡、若有逐相、以其入日占、期百八十日、遠一年。〔卷72〕

(149) 使星入鬻參之間、其國無髮人與大將謀君、期九十日。〔卷30〕

(150) 流星入七星中、諸侯多飢死。〔卷35〕

405 流星入翼、其國用兵、大臣有憂。若抵翼、天下尊諸侯、期百八十日。〔卷72〕

a 大本は「鈴」に作る。 b 「百八十日」、大本は「半年」に作る。 c 「起兵」、大本は「兵起」に作る。 d 大本は「遠」に作る。 e 「遠一年」、大本は「遠不出一年」に作る。 f 「天下」、大本は「天子」に、恒本は「天子下」に作る。

406 流星入女昧、後宮有憂、貴女當有暴誅者、期百八十日。〔卷73〕

407 流星入宗正、左右貴臣多死、若帝宗后族有黜者、期百八十日、遠一年。〔卷73〕

408 流星入河鼓、有兵起、大將出。若抵之、有死將、隨其所犯將當之、期一年、遠二年。大星爲大將。小星爲小將。〔卷73〕

409 流星入天津、水道不通、梁塞若津渡有憂。〔卷73〕

(151) 飛星出騰虵、諸侯暴死。「卷40」

流星入天將軍、大將驚出。「恒本、卷73」

410 流星入太微、有兵起、外國當以兵至、及有使來者、不出其年。

〔卷74〕

411 流星出太微端門、天子之使出。各以所之野命其國、期不出年。

〔卷74〕

412 流星入上台、司命大臣有罪、若有死。流星出之、近臣有出者、

期二年。「卷74」

413 流星出紫宮、人主宮殿空、若有徙王、不則出走、期三年。「卷74」

〔卷74〕

(152) 大流星出紫微宮中、天子出走、不則宮中、有徒室、期三年。

〔卷21〕

使星入紫宮左、匈奴強兵起內侵、將軍戰吞血、不出二年。「卷45」

(156) 流星抵天……冬滂憂旱、萬物不成、穀貴疫。一曰、兵起不

戰。「卷23」

a 「梁塞若」、大本は「梁塞」に、恒本は「關梁塞若」に作る。 b 「以兵至及」、大本は「以兵急」に、恒本は「其兵急」に作る。 c 「來者」、恒本は「者來」に作る。 d 「死」、大本は「死者」に作る。 e 「宮人」、大本は「宮奔人」に作る。 f 「宮殿空若有徙王」、大本は「有徙宮殿王」に、恒本は「宮殿若有遷徙」に作る。

る。 g 「不則」、大本にはなし。

414 流星抵魚星、天下水、魚鹽貴。星若出之、天下旱、魚行人道。

〔卷75〕

415 流星入參旗、兵大起、弓弩用。流星出之、將軍出、兵士行、期二年。「卷75」

〔卷75〕

(153) 天狗入狐中、太子有喪、大臣爲疾病、北方將失地。「卷46」

416 流星抵老人、天下多病、老人不安。一曰、大兵起、老者行。

〔卷75〕

(157) 流星抵老人、大兵起、老者行。「卷32」

(154) 枉矢犯老人、天下大兵、起天子爲將、大戰、士率多死。「卷46」

〔卷46〕

a 「星」、大本にはなし。

(155) 流星色青赤光、從元池起入攝提之間、諸侯以逆、謀吞天下。

〔卷48〕

(156) 流星入三公、客諸侯內宮、出流星三公旁入斗魁、大臣有擊者、不出六十日。「卷48」

(157) 流星色赤、光貫天席中、不出二年、光武帝失位。「卷48」

(158) 流星入積水中、其國水浮、使急詣婦。「卷48」

(159) 流星入貫天河、天子使者、宮中死。出天河旁、諸侯使道中死、不出半周。「卷48」

a 「天席」、帝席のことか。

(160) 流星色赤、大光入鉄鑽中、不出三日、大臣暴死。〔卷49〕

(161) 流星入天廟中、諸侯使詣。出天廟中、下賤侵内。〔卷49〕

客星占

417 德星守建星、君臣俱明、天下更平、五穀更興。〔卷77〕

418 星入月中、其國若有憂。一日、不出三年、臣勝其主。〔卷77〕

a 「平」、大本にはなし。 b 「更興」、大本では注に作る。 c 大本は「主」に作る。

419 赤星入右角、兵吏有置兵軍受命者。〔卷78〕

420 大赤星出右角、國門有出兵。左角、國入兵。〔卷78〕

158 大赤星出右角、國兵出。黃星出右角、國有驚、不戰受地。白

星、不戰而退。青黑星、戰不勝。〔卷8〕

• 大赤星出右角、兵出。黃星、出國、有驚、兵不戰受地。白星、不戰而退。青黑、不勝。守左角、赤、大旱、獄多死。守右角、

黑、大水。赤、多暴虐事。出元角間、赤、有圍邑、大臣盜。

白有兵。〔管蠡匯占〕卷4

421 赤星出元角、國邑有圍者。〔卷78〕

422 黃星起右角、之左角、尉理受執。〔卷78〕

(162) 客星色赤、入右角、其吏亭官有兵。若出左角、將兵戰流血、

期一年。〔卷11〕

(163) 客星色黃、出兩角間、有貴、客來、其國之見君廟、期八月。〔卷11〕

423 客星數入元角、國疾疫。出元角、疾已。〔卷78〕

159 客星入元角、有疾疫、復出之、則疾已。或曰、有來使受命于朝。又曰、八穀傷士卒、出有戰、期不出九十日。〔卷8〕

424 大赤星從角就元角、人主遇賊。〔卷78〕

425 客星出元角、若守之。其國大旱、五穀傷、貴人去其鄉、人民流亡。若芒角變色、地動爲害、期三年。〔卷78〕

160 客星出元角……其國大旱、穀傷、貴人去其鄉。若有芒角、地動、期三年。〔卷8〕

426 客星犯守、國多妖祥。〔卷78〕

161 客星守元角……國多妖。〔卷8〕

427 大赤星入氏、卒大出。〔卷78〕

428 客星守氏、有德令。〔卷78〕

162 客星出氏……有德令。〔卷9〕

429 客星犯鉤鈐、主有犇馬之敗。〔卷78〕

164 客星犯鉤鈐、其主有犇馬之敗、不出三年。〔卷14〕

165 客星蝕奇表、亡不見三日、女后與諸侯淫奸謀主、期一句。〔卷14〕

166 客星留陵舍居尾九星、經一句、不出五年、穆帝崩。〔卷16〕

(167) 客星彗星出箕中、天下大飢、大臣有見葉損者、不出一年。〔卷

430 客星出入守牽牛、馬貴、價三倍。〔卷79〕

①63 客星出半……人多死。〔卷11〕

431 客星入營室、有軍、軍中大饑、將離散、士卒死亡。〔卷79〕

①64 客星入室……有軍、軍飢、將士離散。〔卷13〕

432 客星出婁而守之、天下欲有分奪國者。一曰、客欲奪王國邊境侵地、期一年、遠二年。〔卷80〕

①65 客星出婁而守之……邊失地、有爭國者。〔卷14〕

433 客星犯胃、有軍發之事。〔卷80〕

①68 赤客星守附耳、有邊兵尤甚、諸侯印逆、謀太子。〔卷29〕

434 客星守張不去、滿三十日、有亡國、死亡、臣殺其主、小人謀貴、禍及嗣子、期三年。〔卷81〕

①66 客星守張、滿三十、有亡國、死亡、臣謀逆、小人謀貴、禍及嗣子、期三年。〔卷19〕

435 客星干犯軫、近期百八十日、遠期一年。〔卷81〕

①67 客星犯軫……有兵喪。一曰、邊兵起。〔卷19〕

a 「入」、大本にはなし。 b 「間國」、大本は「門國」、恒本は「間國易」に作る。 c 恒本は「埋」に作る。

d 「國疾」、大本は「國有疾」に作る。 e 「若」、大本にはなし。 f 恒本は「軍」に作る。 g 大本は「奔」

に作る。 h 「馬貴」、大本は「牛馬」に作る。 i 「營」、大本にはなし。 j 「軍軍」、大本は「兵軍」に作る。

k 大本は「主」に作る。 l 大本は「入」に作る。 m

「亡臣殺」、大本は「王臣弒」に作る。 n 「嗣子」、大本は「子嗣」に作る。 o この一文、恒本にはなし。

f 「干」、大本にはなし。 g 「軫近」、大本は「軫有兵喪近」に作る。 r 「百八十日」、大本は「半年」に作る。 s 「期」、大本にはなし。

436 客星出入大角、天下亂、兵大起、臣謀其主、不則天下出水、入城郭、殺人民、期百日。〔卷82〕

①68 客星出大角……臣謀主、天子出、大水城廓、斯百日。〔卷26〕

437 客星干犯梗河、天子慎邊、四裔不靖。〔卷82〕

438 客星舍梗河、陰陽不和、天下大風、樹木皆倒。〔卷82〕

①69 客星舍梗河……天下大風、拔木。〔卷26〕

439 客星出織女、若入之、后族爲亂、若誅臣。一曰、貴女有誅者、各以五色占。白爲喪、赤爲兵、黑爲水、黃爲旱、青爲饑。〔卷82〕

①70 客星出織女……后族爲亂、有戮臣。一曰、貴女有誅者。〔卷28〕

440 客星入建星、有意福、穀大熟。〔卷82〕

①71 客星入建星……君臣不和。〔卷28〕

①72 客星入建星……年穀熟。〔卷28〕

441 客星出建星、君不親其大臣、上下相疑、主令不行。〔卷82〕

• 客星出建星、有兵在外大戰、君臣不和。「大本、卷84」

入城郭、殺人民、期百日。「卷83」

(169) 客星入留左旗中、且宮中奸有女子、潛天子、期五十日。「卷48」

a 「天下」、大本は「天子」に作る。 b 「慎邊四裔不靖」、大本は「慎胡亂中國」、恒本は「鎮邊中國亂」に作る。 c 「不和」、大本は「不合和」に作る。 d 「入」、大本にはなし。 e 「占」、大本は「占之」に作る。 f 「兵黑爲」、大本にはなし。 g 「有憲福穀大熟」、大本は「年谷熟」に作る。また、その後に「一日不親大臣上下相疑主令不行」「一日大水橋梁不通」とあり。この一文、大本は卷84で引用。 h 恒本は「赤」に作る。 i 大本は「若」に作る。 j 「所守土」、大本は「五」に、恒本は「所守主」に作る。 k 「犯守之」、恒本には無し。 l 「用」、大本にはなし。 m 大本は「三」に作る。 n 「主」、大本にはなし。 o 「城郭」、大本は「城郭渚」に作る。 p 「民」の後、大本には「期一月」とあり。 q 大本は「獸」に作る。 r 大本は「伐」に作る。

442 客星入王良而守之、天下兵起、車騎行、人主憂、將軍有死者、期三年。「卷82」

443 客星入五車、所守土穀貴。「卷82」

444 客星入五車、犯守之、大人有憂、車騎發用、將軍出令、國易政、期三年。「卷82」

445 客星出五諸侯、大臣有憂、若執法者有罪。一曰、議臣有黜者。「卷82」

• 兵大起、大水入城郭。若有所犯守、各以其所中者占之。「大本、卷83」

446 客星入太微中、火大起、有客賊來入國、守之十日不去、其災成。在陽爲男主、在陰爲女主、不出四十日。「卷83」

447 客星入天微、天下大亂、兵大起、臣謀其主、不則天下大水、入城郭、殺人民。「卷83」

(173) 客星出太微天庭中……兵大起、大水入城郭。若有所犯守、各以其所中命之。「卷20」

448 客星入天獄、有德令。「卷83」

(174) 客星入天牢……有德令。「卷23」

(170) 客星入天獄、有德令。「卷43」

449 客星出入北斗、天下大亂、兵大起、臣謀主、不則天下大水、

450 客星出守蠡星、有白衣之衆聚、若天下有水、水物不成、期百八十日、遠一年。「卷84」

451 客星出天屏、輔臣有憂、若人民多疾病、四足畜多死。「卷84」

452 客星守天稷、五穀散出、其歲憂、人民饑。一曰、守之久、社稷不安。「卷84」

①76 客星守天稷、穀散出、歲凶、人飢。久之、社稷不安。〔卷33〕

a これらの文、大本にはなし。 b 「天」、恒本にはなし。

(171) 客星守輦道、賢臣詣執政、不出一年。〔卷48〕

(172) 客星守陵八魁、天下賊盜竝起、君旬附不畜。〔卷49〕

(173) 客星守天園、急兵内國境相攻。〔卷49〕

(174) 客星守天節、三公死、及胡王有死者、不出半周。〔卷49〕

妖星占

453 枉矢類流星、望之有毛目、長可一疋布、皎皎著天、見則大兵

起、大將出、弓弩用、期三年。〔卷86〕

①76 枉矢類流星、之有毛自長可一匹布、皎皎着天、見則天下兵大起、期三年。〔卷36〕

f 枉矢類流星、望之有毛目、可一疋布、皎皎着天、見則天下兵大起、將出、弓弩用、期三年。〔乙巳占〕卷8

a 大本は「角」に、恒本は「白」に作る。 b 「疋布」、恒本は「尺有」に作る。 c 「著天」、大本は「着天」

に、恒本は「者」に作る。 d 「目可一」、天本は「白如」に作る。 e 「見則」、天本は「主」に作る。 f

「大」、天本にはなし。 g 「弓弩用」、天本にはなし。

(175) 旬始犯斗口旁、三兵起、大將軍吞血、期七十日、其色蒼黑見

則内亂、諸侯悖相攻擊。〔卷44〕

彗星占

454 彗長五尺、以至一丈、期三月、若十月。一丈以至三丈、期三年。三丈以至五丈、期五年。五丈以至十丈、期七年。十丈以

上、期九年。〔卷88〕

455 凡彗有色、白黑爲男主、赤黃爲女主、皆爲人君、女主死之之殃。〔卷88〕

456 彗星入月中、兵大起、有臣欲弑其君者、十二年、大飢。〔卷89〕

457 彗星入月中、星無光、不出其年、亡國。星出、亡國復立。〔卷89〕

①77 彗星入月而月無光、不出期年、國亡。星入而即出、則亡國復立。〔卷3〕

a 大本は「三」に作る。 b 「丈以至五丈期五年五丈以至十丈」、大本は「尺」に作る。 c 恒本は「見」に

作る。 d 「皆」、恒本にはなし。 e 大本は「亡」に作る。 f 「殃」の後、大本には「又曰彗星所主五星之

變人君敗亡之徵」とあり。 g 大本は「入」に作る。 h 「星」、大本は小字で挿入。 i 「星出」、大本は「若

星出之」に作る。

- (176) 赤彗星入兩角、經五十日、其光甚赤如血、其國受兵殃、君臣相戰、百姓飢死、期二年。〔卷11〕
- 458 彗星出入尾、后相貴臣誅、兵起宮門、宮人走出、國易政、期一年、中二年、遠三年。〔卷89〕
- 459 彗星出箕、天下大飢、大臣有見棄捐者。〔卷89〕
- (178) 彗孛出箕……天下多死喪。一曰、夷狄入中國、兵大起、海溢河決、且有旱、米貴十倍。〔卷10〕
- (177) 彗星出箕、五穀大貴、天下大旱、人民飢死、不出一年。〔卷17〕
- 460 彗星出牽牛、四夷兵起、邊境爲亂、來侵中國、人主有憂、期一年、中二年、遠三年。〔卷89〕
- 461 彗星出奎、有大兵起、四夷來伐中國、郡君出戰、天下大飢、有水災、期三年、遠五年。〔卷89〕
- 462 彗星出夔、國有大兵、四時絕祠、有亡國、先旱後水、人民飢死、五穀大貴、糶無價、期一年、遠二年。〔卷89〕
- (178) 彗星出於參、東井之間、上枉殺伐長吏。〔卷31〕
- a 「牽」、大本にはなし。 b 「兵起」、恒本は「兵大起」に作る。 c 「爲亂來侵」、大本は「内亂爲爭戰」に作る。 d 「四夷」、恒本は「羌戎」に作る。 e この一文、大本は「甘氏曰」の一文に次いで、「又曰」として引用。 f 「彗星出」、大本は「彗孛出」に作る。 g 「有大」、大本は「大臣興」に作る。 h 恒本は「五」に作る。
- 463 彗孛干犯梗河、天子愼邊防亂中國。〔卷90〕
- 464 彗星出賈索、必有反臣殺君、若有大赦、期百日、遠一年。〔卷90〕
- 465 彗孛出附路、天下大飢、車騎滿野、道中縱橫、人主臨兵、期三年。〔卷90〕
- 466 彗星出南河、蠻越兵起、邊域有憂、若闕吏有罪者。〔卷90〕
- 467 彗星守南河、爲大旱。出北河、夷爲亂、來侵中國、若守胡軍敗。又曰、守北河、爲大水、期不出三年。〔卷90〕
- 468 彗星出北斗、大臣謀反、兵大起。〔卷90〕
- 469 彗孛守北斗、強國發兵、大臣爭權、大人有憂、國易其主、天下不寧、守之三日以上、大臣當誅、期三年、遠五年。〔卷90〕
- (179) 彗星出紫宮、左梓明其邦、春大旱、五穀不下、民飢、貴人賣衣裳、東西飢、南北疫疾、三兵竝起。〔卷45〕
- a 「邊防」、大本は「胡胡」に、恒本は「寇寇」に作る。 b 大本は「者」に作る。 c 大本は「孛」に作る。 d 恒本は「具」に作る。 e 大本は「城」に、恒本は「賊」に作る。 f 「北河夷」、大本は「南河北夷」とあり、「南」の右に「ト」の刪除符がある。恒本は「北河羌」に作る。 g 「守胡」、大本は「守之胡」に、恒本は「守邊」に作る。 h 「起」の後、大本には

「若入北斗魁中大臣誅死若被誅三日乃治春夏期三年秋冬期一年」、恒本には「又曰彗入斗魁大臣死若被誅三日乃占春夏期三年秋冬期一年」とあり。i 「其」、大本にはなし。

470 彗^a 出^a 羽林、兵起宮中、臣弑其主、大人被甲、有亡國。若守

之三十日、國破主亡、期三年。「卷90」

471 彗星出^b 天倉、天下粟出、若守之久、國無儲糧、人民飢、期三年。「卷90」

472 彗星守^b 野雞、大將死、軍市破、諸侯相攻、有亡國、期三年。

〔卷90〕

473 彗星出^b 天稷、歲大飢、五穀不成、人民流亡、社稷不安。「卷90」

a 「孝」、大本にはなし。 b 大本は「孝」に作る。 c 恒本は「困」に作る。 d 「將死」、大本は「將軍死」に作る。 e 恒本は「二」に作る。 f 「流」、大本にはなし。

474 彗星出^a 天街、内有賊人。「卷90」

475 霧 霧冬以壬癸亥子日、氣青黑色、南行興軍、動衆。「卷10」

〔海中占〕の輯佚

a 大本は「丁」に作る。 b 「南行」、大本にはなし。

〔その他〕『墨卿談乘』の引用。他の文献では同様の一文が『海中星占』として引用されることがある。

• 『天雞星動、有赦。』『墨卿談乘』卷12

注

- (1) 經典集林本「靈憲」(百部叢書集成所収)。
- (2) 南宋・王應麟の『漢書文志考証』や、『玉海』天文篇、清・孫星衍輯校『続古文苑』卷二十などに指摘がある。
- (3) 『海中占』に関しては、呂子方「漢代海上占星術」(『中国科学技術論文集』下冊、四川科学技術出版社、一九八四年)があり、また拙稿『海中占』関連文献に関する基礎的考察(『関西大学中国文学会公紀要』二〇一三年三月刊行予定)で基礎的な考察を行なった。
- (4) 新見寛編、鈴木隆一補『本邦残存典籍による輯佚資料集成 続』(京都大学人文科学研究所、一九六八年)
- (5) 佐々木聡「開元占経」の諸抄本と近世以降の伝来について(『日本中国学会報』第六十四集、二〇一二年)では「開元占経」のテキストを三系統に分類しており、本稿で比較したのはそのうち一系統にすぎないが、他の系統は閲覧が比較的困難であり、また校合が煩瑣にわたるため、これらとの比較は今後の課題とした。
- (6) 『観象玩占』にある『海中占』の佚文は、大部分が『開元占経』のものとの一致する。『観象玩占』には「開元占日」という引用もあり、「開元占経」の内容も参照していることから、あるいは『海中占』からの引用も『開元占経』からの孫引きである可能性もある。しかし、二書間の文字の異同は多く、『観象玩占』所引の『海中占』には現存の『開元占経』に見られない佚文もあるため、本稿では区別して取り上げた。

Restoration of “*Hai-Zhong Zhan*”

MAEHARA Ayano

This paper provides a collection of restored excerpts from an astrological text, “*Hai-zhong zhan*” (海中占). Although there were many astrological texts in ancient China, few are in existence today. Referring to an anthology of mantic words such as “*Kaiyuan zhanjing*” (開元占經) for restored excerpts is the only way to learn the content of these books. Although excerpts from “*Hai-zhong zhan*” are included to a great extent in “*Kaiyuan zhanjing*”, “*Guanxiang wanzhan*” (觀象玩占), and “*Tianwen yaolu*” (天文要錄), they have only limited appearance in other works.

“*A corpus of restored excerpts in existing classic texts in Japan*” (本邦残存典籍による輯佚資料集成 続) written by Ryuichi Suzuki (鈴木隆一) and edited by Hiroshi Niimi (新見寛) contains restored excerpts of “*Hai-zhong zhan*” found in “*Tianwen yaolu*” and “*Tiandi ruixiangzhi*” (天地瑞祥志). Yet still, only a partial picture of “*Hai-zhong zhan*” was available because no previous works, including Niimi’s, included all the restored excerpts of this text. The purpose of this paper is to grasp the full picture of “*Hai-zhong zhan*” through a more extensive collection and organization of its restored excerpts.